



**第3期登別市地域福祉実践計画「きずな」別冊
これからの登別のきずなを考えるアンケート調査
報告書**

社会福祉法人 登別市社会福祉協議会

もくじ

1. 地域福祉実践者を対象とした福祉アンケート調査の結果分析 . . .	1
1) 回答者の特性について	1
2) 回答者が現在取り組んでいる地域福祉活動	4
3) 回答者が考えるこれからの地域福祉活動	8
4) クロス分析	11
5) 分析を終えて	14
2. 福祉事業所を対象とした福祉アンケート調査の結果分析	16
1) 回答事業所の特性について	16
2) 回答事業所の生活支援サービスの現状と展望	17
3) 回答事業所が考えるこれからの地域福祉活動	19
4) クロス分析	21
5) 分析を終えて	22
資料編	
資料1 福祉実践者向けアンケート調査 質問14-1 こんなサービスがあったらいいな	23
資料2 福祉実践者向けアンケート調査 質問14-2 こんなことなら参加できそうだな	29
資料3 福祉実践者向けアンケート調査 質問15 地域福祉を進めていくうえでの意見やアイデア	31
資料4 福祉事業所向けアンケート調査 質問6 地域福祉を進めていくうえでの意見やアイデア	48
資料5 福祉実践者向けアンケート調査用紙	49
資料6 福祉事業所向けアンケート調査用紙	57

1. 地域福祉実践者を対象とした福祉アンケート調査の結果分析

このアンケート調査は、日々、地域において福祉活動を実践している町内会役員や民生委員・児童委員、ボランティア活動者など、1,520名を対象に依頼し、687名の回答があった。(回答率45.2%)

また、福祉活動の充実や福祉活動者の安定した確保に向けた取り組みを実施していくことをこのアンケート調査のねらいとした。そのため、設問も現在行っている地域福祉活動の実態や実費負担程度の有償化を視野に入れた地域に必要なと思うサービスなどを尋ねるものとしており、これまで行ってきた市民の意識調査とは異なり、福祉活動実践者の意識を問うものとした。

1) 回答者の特性について

まず、回答者の性別人数と割合は、男性338名、49.2%、女性344名、50.8%、無回答5名、0.7%、合計687名であり、男女比はほぼ同じである。

これを年齢別の割合で調べると、70～74歳が24.0%と最も多く、次いで65～69歳が20.2%、75～79歳が14.1%、60～64歳が12.4%となった。また、80歳以上の活動者が6.6%にもものぼり、60歳以上の回答者で75%以上を占める。これはアンケート回答者の3/4にあたり、10歳代から50歳代は22.6%に過ぎない。従って、このアンケート調査の分析は、60歳以上の回答者がほとんどであることを配慮する必要がある。

図1 回答者の性別

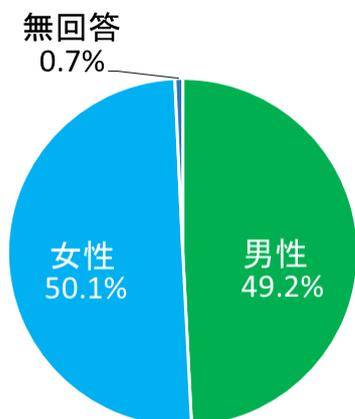
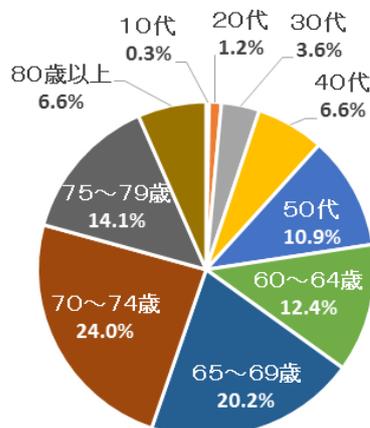


図2 回答者の年齢別



また、性別による年齢区分構成を比べると、60歳代の回答者は、男性が102名、女性が122名、70歳代の回答者は、男性が159名、女性が101名、80歳以上では、それぞれ29名、14名であり、60歳代以上の回答者総数は、男性290名、女性237名である。従って、男性は女性に比べて高齢者の回答が多い。これは、高齢になればなるほど、一般的に人口は、男性よりも女性の人数の方が増えるにもかかわらず、回答者の傾向は逆になっている。

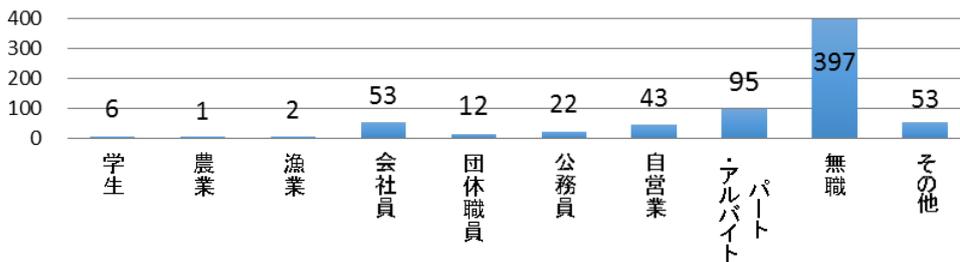
これら回答者の構成上のゆがみが、アンケート調査結果にも影響していると考えられる。

図3 性別、年齢別 回答者の人数

	10代	20代	30代	40代	50代	60代 64歳	60代 65歳	65代 69歳	70代 74歳	70代 75歳	75代 79歳	80歳以上	無回答	合計
男性	0	3	10	11	24	43	59	90	69	29	0	0	338	
女性	2	5	15	34	51	42	80	74	27	14	0	0	344	
無回答	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	1	1	5	
合計	2	8	25	45	75	85	139	165	97	45	1	1	687	

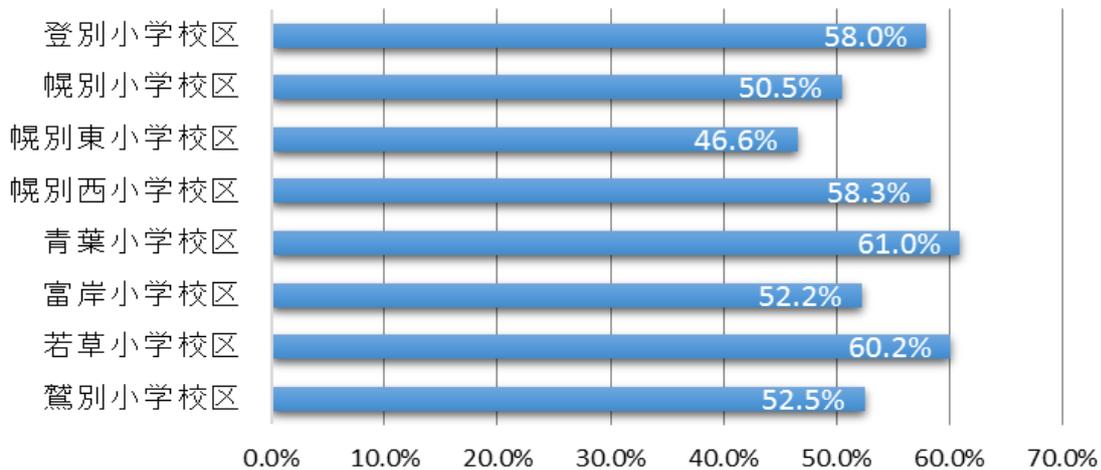
次に、回答者の職業については、無職と答えた人が397名、57.8%であり、男女比率については、男性50.4%、女性49.6%とほぼ同率であった。次いで、パート・アルバイト95名、13.8%と続いており、無職とアルバイトの比率が72%と高かった。回答者の75%以上が60歳以上であることは年齢別の結果からも示されており、その影響があるものと推察される。また、会社員とその他が、それぞれ53名、7.8%という結果であった。

図4 回答者の職業別



回答者の居住校区別であるが、割合を見ていくと、ほとんどの校区で50%以上の回答がされており、地域差はほぼないものと判断される。これは、福祉活動の関心の深さや活動そのものが、地域を問わず浸透しているということが推察される。

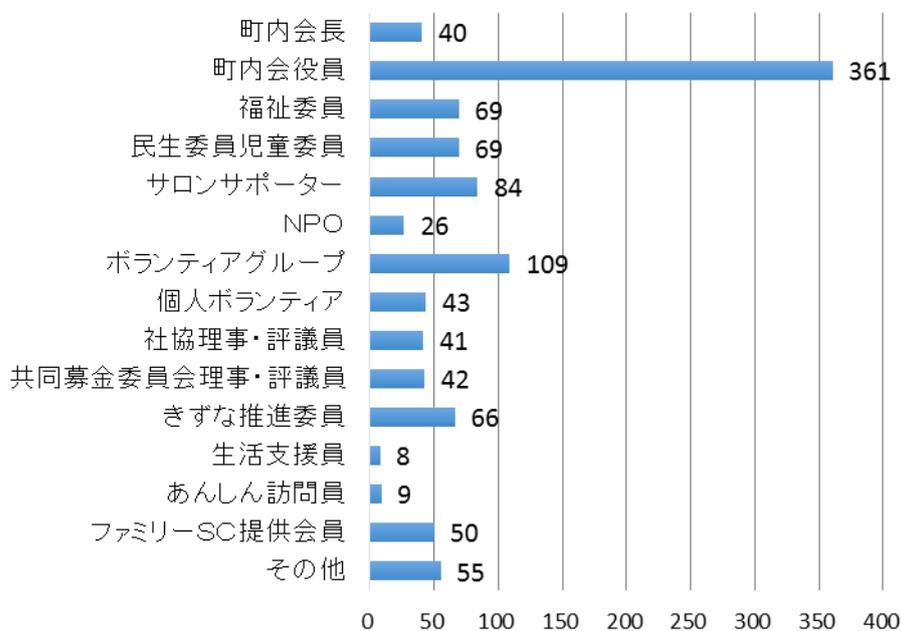
図5 回答者の居住校区別



福祉活動別の回答者数については、総数1,072件であり、1人の回答者が15の選択肢の中から平均1.6の複数回答をし、町内会役員が361名と突出していた。それに付随し、町内会長40名、福祉委員69名と、町内会活動をしている人が470名、60%以上にもものぼり、登別においては、町内会活動が活発であることを改めて認識させられる結果であった。また、団体ボランティア109名、15.9%、サロンサポーター84名、12.2%とそれに続いた。

アンケート送付時の登別市ボランティアセンターに登録している団体は、49団体あり、平均すると1団体2.2名から回答があった。また、サロンサポーターは、登別市内で開催されているふれあい・いきいきサロンの運営主体者であり、送付した243名の内、34.6%の回答があった。

図6 回答者の福祉活動内容別



最後に、回答者の福祉活動の継続性についてであるが、5年刻みで見ると0年から4年が31.3%、5年から9年が20.2%、10年から14年が18.2%となっている。また、ほとんどが60歳以上と思われる15年以上活動している方が21.0%もいることがわかる。

これは1度福祉の道に足を踏み入れると、継続して活動している結果を意味していると推察される。

図7 回答者の福祉活動年数別



ここまでが回答者の特性について分析した基礎的データであり、このような特徴を持つ回答者の回答を基にして、分析を行っていく。

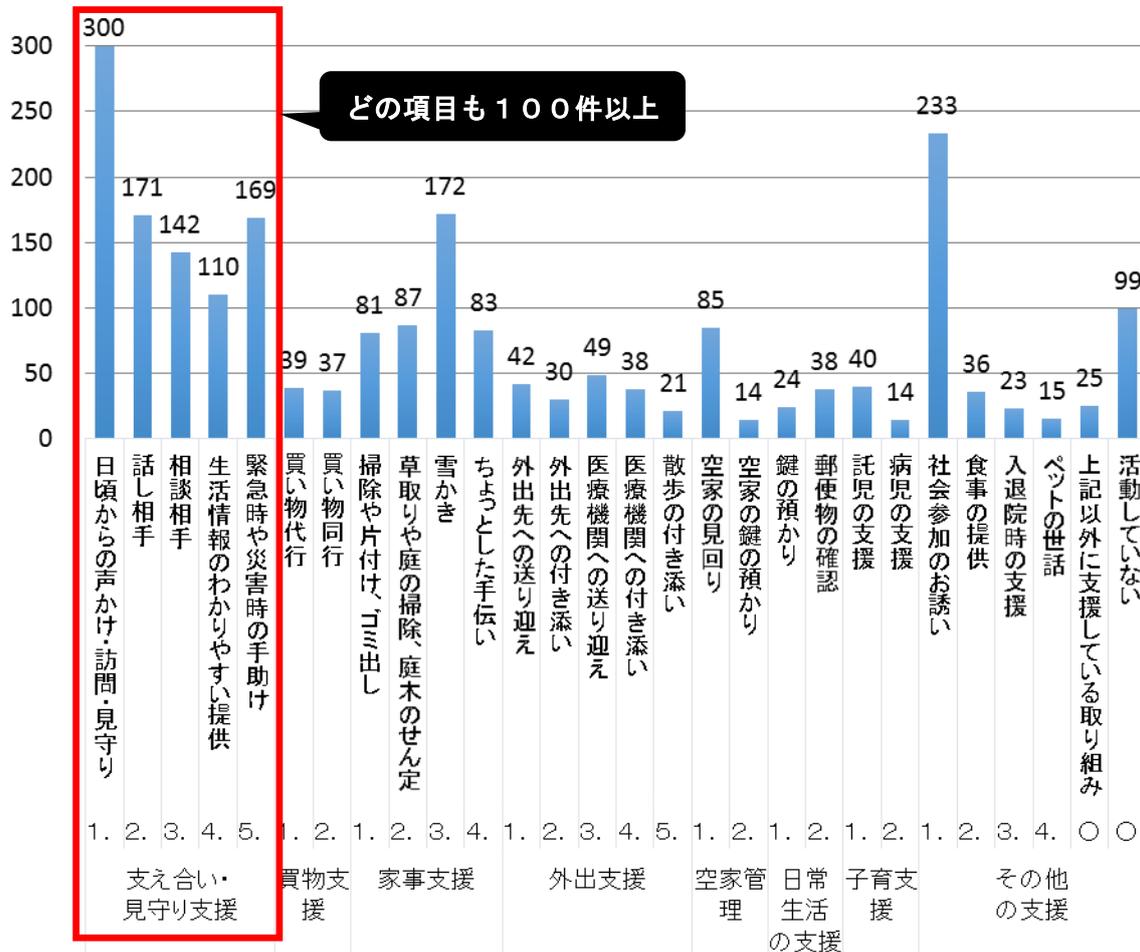
2) 回答者が現在取り組んでいる地域福祉活動

質問7は「現在支援している取り組み」と「今後支援が必要であると思う取り組み」について尋ねた設問である。

まず、現在支援している取り組み別（質問7-1）の結果については、2, 217件の回答総数であり、一人の回答者が28の選択肢の中から平均3.2の複数回答をした。

町内会活動をしている人が多いと先に述べたが、その影響からか、支え合い・見守り支援の項目は、日頃からの声かけ・訪問・見守り活動が300件と最も高く、話し相手171件、緊急時や災害時の手助け169件と続き、その他の項目も100件以上の回答があった。これは、第2期きずな計画の重点事業として挙げられている「小地域ネットワーク活動」が地域に根差した活動となっていることを裏付ける結果となった。また、主に町内会活動として取り組んでいる社会参加のお誘いが233件、雪かきが172件と続いている。これらのことから、市内の町内会活動が活発であることがわかったとともに、その大切さを強く伝えている。

図8 現在支援している取り組み別



次に、今後支援が必要であると思う取り組み別（質問7-2）については、現在は取り組めていないが、福祉実践者として、今後地域に必要なであると思う取り組みについて問うものとなっている。

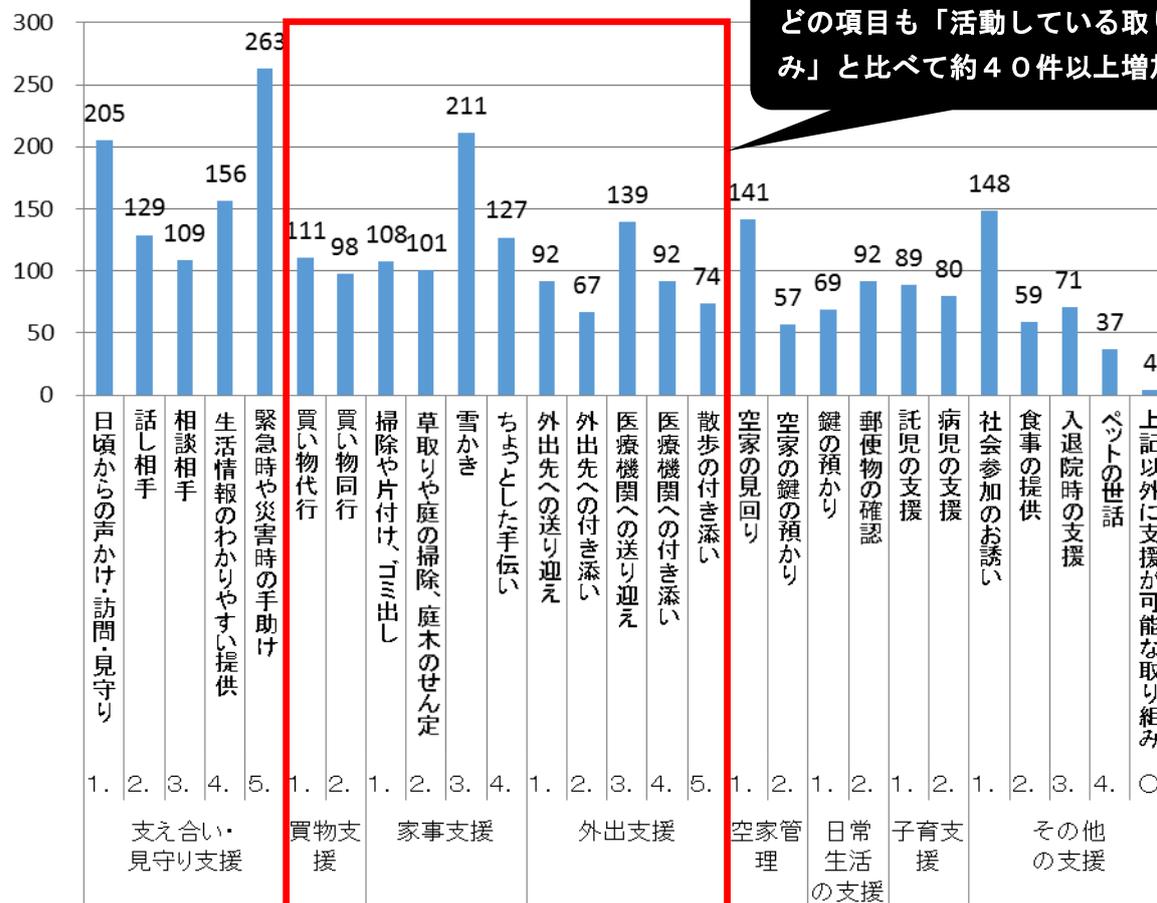
回答者は平均4.3の複数回答をし、総数は2,929件であった。注目したい点は、現在支援している取り組みよりも総数が700件以上増えたということである。地域の支え合いの最前線にいる福祉実践者は、日々地域住民と接することで、ニーズの高い取り組みや地域に不足している取り組みを、肌で実感しているためと考えられる。

まず、回答数が上位に来たものは、質問7-1とほぼ同様であり、緊急時や災害時の手助け263件、雪かき211件、日頃からの声かけ・訪問・見守り205件などへと続いた。これらの活動は、現在支援している人、していない人に関わらず、多くの福祉実践者が地域に必要だと考えていることがわかった。

さらに、買物支援や家事支援、外出支援におけるそれぞれの項目の回答数は、質問7-1と比べてほぼ40件以上増加している。特に増加数が多いものとしては、医療機関への送り迎え90件の増加、買い物代行72件の増加、買い物同行61件の増加であり、これらの支援は生活支援サービスと称される。また、介護保険制度の改正に伴い、今後支援を必要とする人たちに対し、地域住民や関係機関などが連携した中で支援をしていく必要がある項目でもある。

地域福祉実践者たちは、日々の支援を通して、生活支援サービスの重要性や提供していく必要性について強く考えていることが、この設問から導き出された。

図9 今後支援が必要だと思う取り組み別

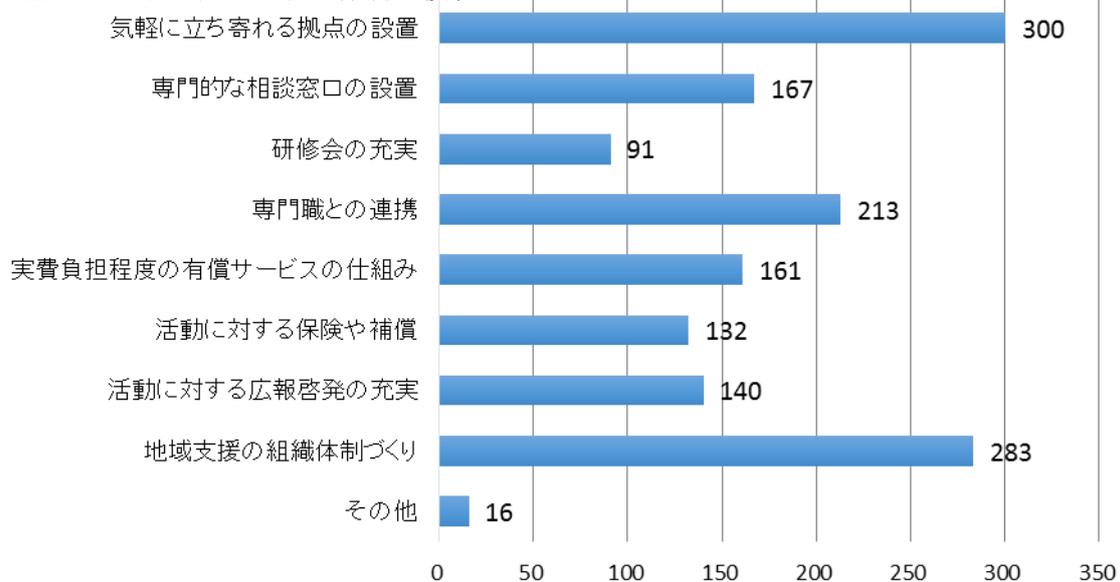


質問8は、どのような体制や支援があると福祉活動が取り組みやすいかについて尋ねており、一人の回答者が9の選択肢の中から平均2.2の複数回答し、総数は1,503件であった。

気軽に立ち寄れる拠点の設置300件、地域支援の組織体制づくり283件、専門職との連携213件と、組織との関連が多かった。つまり、福祉活動を行なうためには、「活動場所、専門的知識、指導者」などの組織的な支援が重要であることを物語っていると考えられる。

また、専門的な相談窓口の設置167件、実費負担程度の有償サービスの仕組みづくり161件と続いた。上位3項目も含めてであるが、これらの項目は、地域包括ケアPTの協議の中でも重要であると挙げられた項目である。従って、福祉実践者と専門職、それぞれが思い描く展望が一致していることの表れであるとともに、その展望の実現に向け、連携・協働し、推し進めていく必要性を強く感じる結果であった。

図10 取り組みやすい体制・援助別

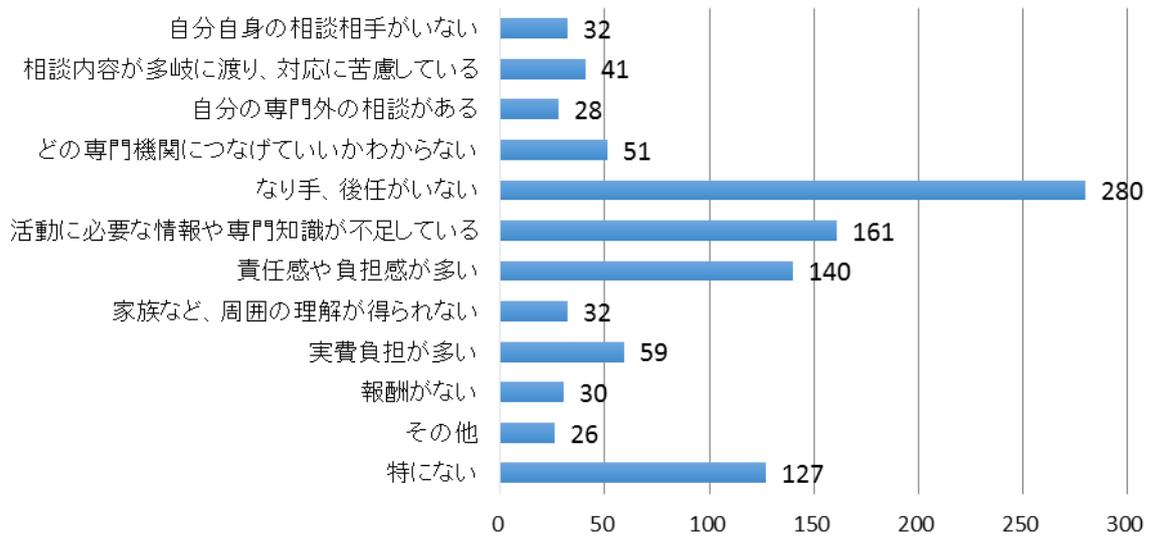


質問9は、福祉活動を進める中での困りごとについて問うもので、回答総数は1,007件であった。一人の回答者が12の選択肢の中から平均1.5の複数回答をしている。

なり手、後任がないが280件と突出しており、町内会活動をはじめ、どの活動にも当てはまる大きな課題であるといえる。さらに、活動に必要な情報や専門知識が不足している161件、責任感や負担感が多い140件と、今後の研修会のあり方や活動者に対する支援、フォローについても一考を講じる必要がある。

また、どの専門機関につなげていいかわからない51件、相談内容が多岐に渡り、対応に苦慮している41件、自分自身の相談相手がない32件、自分の専門外の相談がある28件と、相談に関する回答が152件も挙げられている。登別市内には、行政をはじめ、地域包括支援センターや社協など、様々な相談機関があるが、福祉実践者と相談機関との連携強化を図る必要もあると推察される。

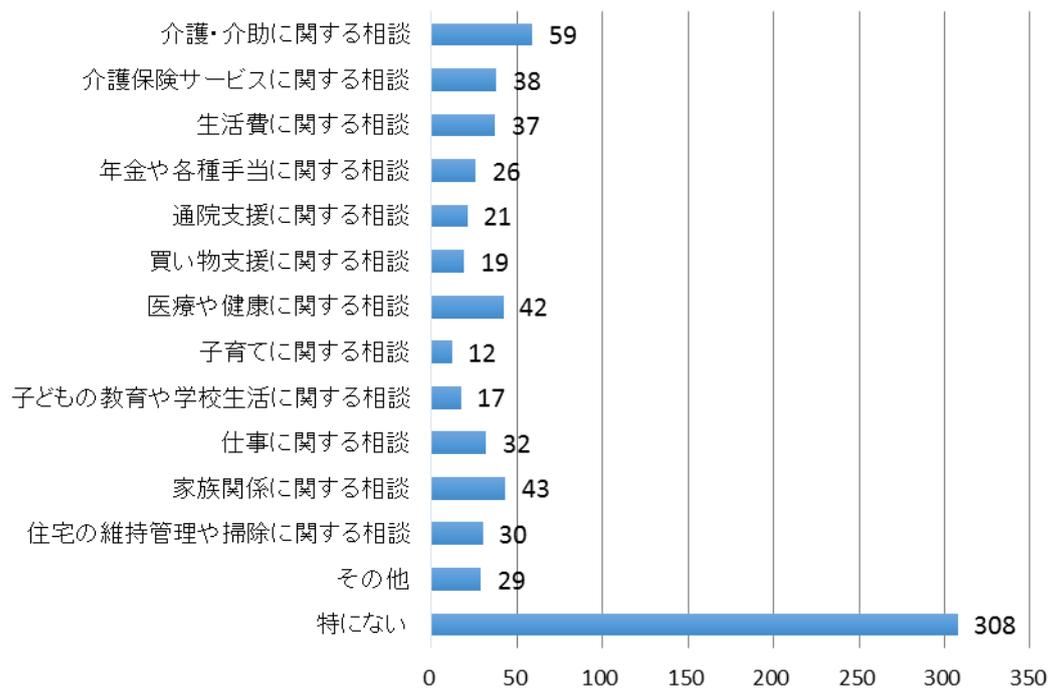
図 1 1 福祉活動を進める中の困りごと別



質問 10 では、福祉活動を進める中での解決しなかった、専門職につなぐことができなかった相談事について尋ねた設問であり、回答総数は 713 件であった。特になしが 308 件と突出した結果となっているが、合計 405 件もの解決できなかった、つなげられなかった相談事があることがわかった。これらは、どれもがないがしろに出来ない、地域住民の相談事である。

このことから、専門機関と福祉実践者をつなぐネットワークの重要性が浮き彫りになったとともに、地域住民が安心して生活を続けて行くためにも、連携の強化に向けた取り組みが必要とされる。

図 1 2 解決しなかった、専門職につなぐことができなかった相談事別



3) 回答者が考えるこれからの地域福祉活動

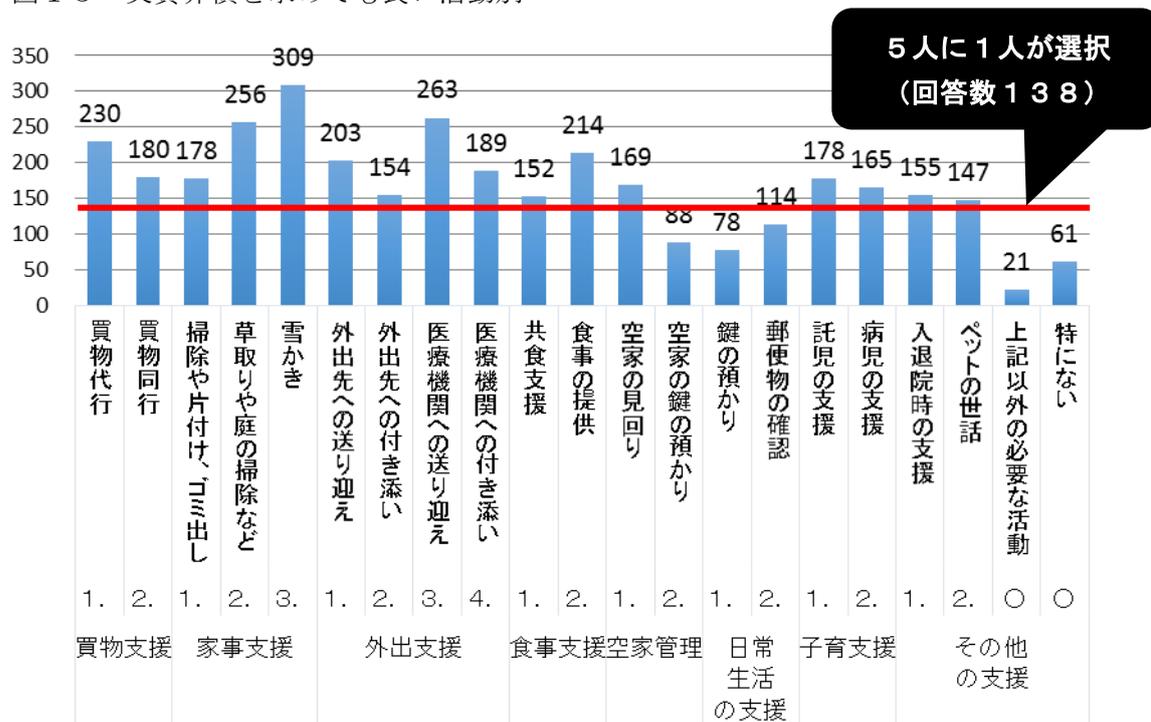
質問11は、「実費弁償を求めても良い活動」と「参加してみたい活動」について問う設問である。

まず、実費弁償を求めても良い活動別（質問11-1）の結果については、一人の回答者が21の選択肢の中から平均5.1の複数回答をし、総数は3,504件であった。1人あたり、5項目も選択していることとなり、有償でもやむを得ないのではないかと考えている。このことから無償でのボランティアな活動にのみ、頼ることは難しくなっている。

詳細をみていくと、雪かき309件、医療機関への送り迎え263件、草刈り等支援256件、買物代行230件と高齢者の日常生活に直結した活動への要請が高かった。

また、食事支援や子育て支援等、他の項目についても、5人に1人が実費弁償を求めても良いと答えていることから、どの生活支援サービスの構築を検討する場合にも、実費負担の仕組みを視野に入れる必要性を示唆する結果となった。

図13 実費弁償を求めても良い活動別



次に、参加してみたい活動別（質問11-2）について分析する。

質問11-2は、実費負担程度の有償化の仕組みの中で参加してみたい活動について尋ねた設問であり、一人の回答者が21の選択肢の中から平均1.5の複数回答をし、総数は1,027件であった。

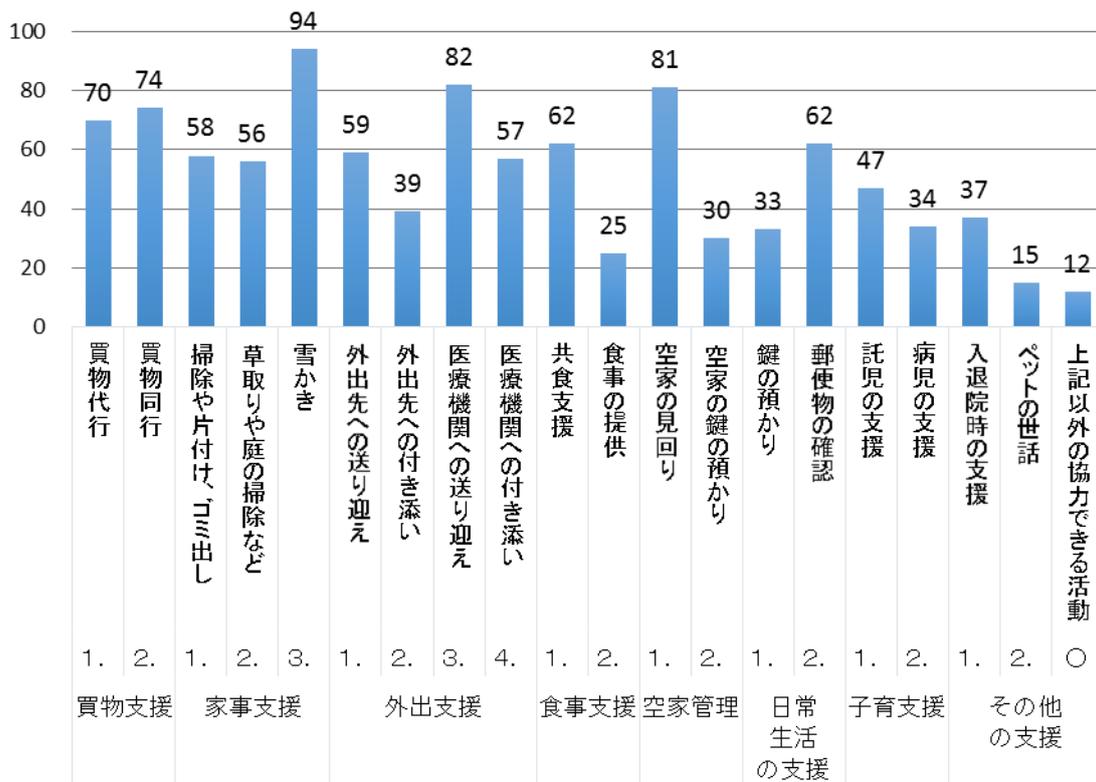
実費弁償を求めても良い活動の回答総数は3,504件であったが、その中で参加してみたい活動は約3割であった。やはり、日常の地域福祉活動を行ないつつ、それに加えて活動を増やすということへの躊躇であろうか。それでも1人あたり1.5項目が選択され

たことに参加の意欲を感じ取れたのが救いであった。

内容についてであるが、雪かき94件、医療機関への送り迎え82件と、1番目2番目は実費負担を求めても良い活動と同じであったが、空家の見回りが81件と3番目に入ったのは、空家が目立って増えてきたためと思われる。

また、買物同行74件、買物代行70件と買物支援に関わる回答が多く、男女比を比べてみると、買物同行、男性24名、女性46名、買物代行、男性27名、女性47名と、女性の回答数が圧倒的に多いことがわかった。日々の買物の延長として支援できるという気軽さから女性の回答が多いものと推察される。

図14 参加してみたい活動別



質問12は、これからの社協に求めるものを問う設問である。一人の回答者が17の選択肢の中から平均3.7の複数回答をし、総数は2,568件であった。

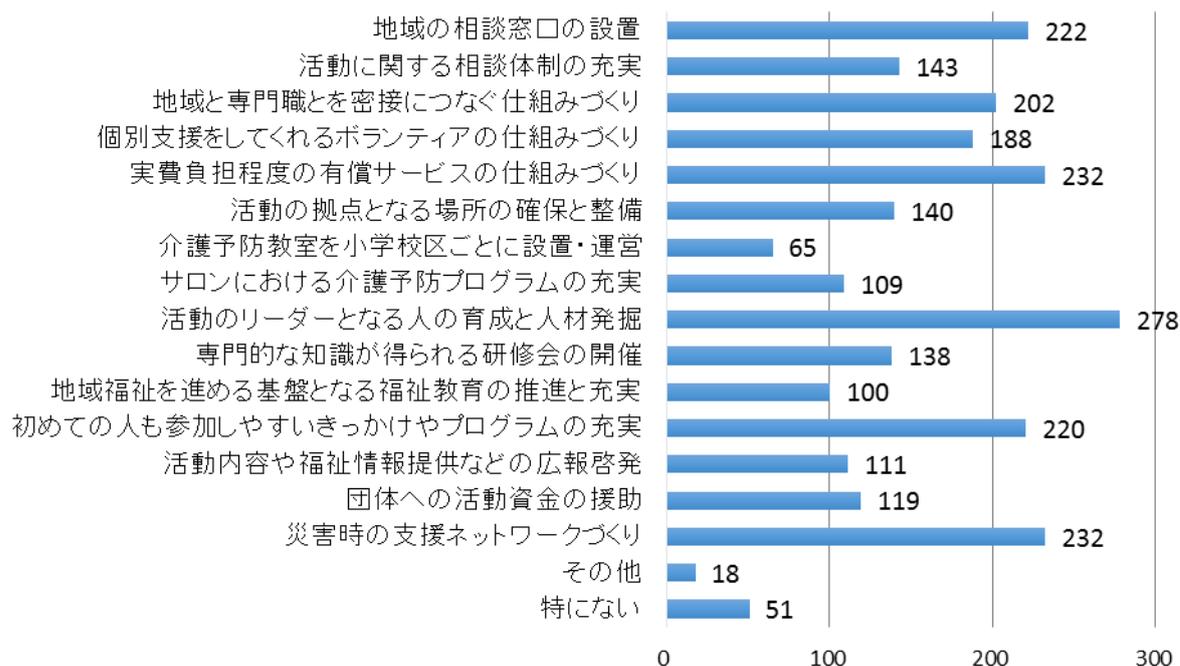
活動のリーダーの育成と人材発掘が278件と1番高く、今後の研修会の内容やあり方も含め検討を行う必要性を強く感じる結果となった。2番目は実費負担程度の有償サービスの仕組みづくり232件となり、これからの生活支援サービスの有償化の取り組みを社協が中心となって検討を行って欲しいという活動者たちのおもいが伝わるものであった。

また、同数で災害時の支援ネットワークづくりが2番目となっており、平成23年(2011年)3月11日の東日本大震災や平成24年(2012年)11月27日の登別大規模停電の影響が大きいと考えられる。

そして、これらを含め、地域の相談窓口の設置222件、初めての人も参加しやすいき

っかけやプログラムの充実220件、地域と専門職とを密接につなぐ仕組みづくり202件など、上位6項目は、どれも200件を超えている。合計は1,386件にものぼり、総数2,568件の半数以上となる。社協は、地域がこれらの取り組みを求めているということを真摯に受け止め、地域や関係機関との連携・協働のなかで、これらの取り組みを着実に進めていく必要がある。

図15 社協に求めるもの別



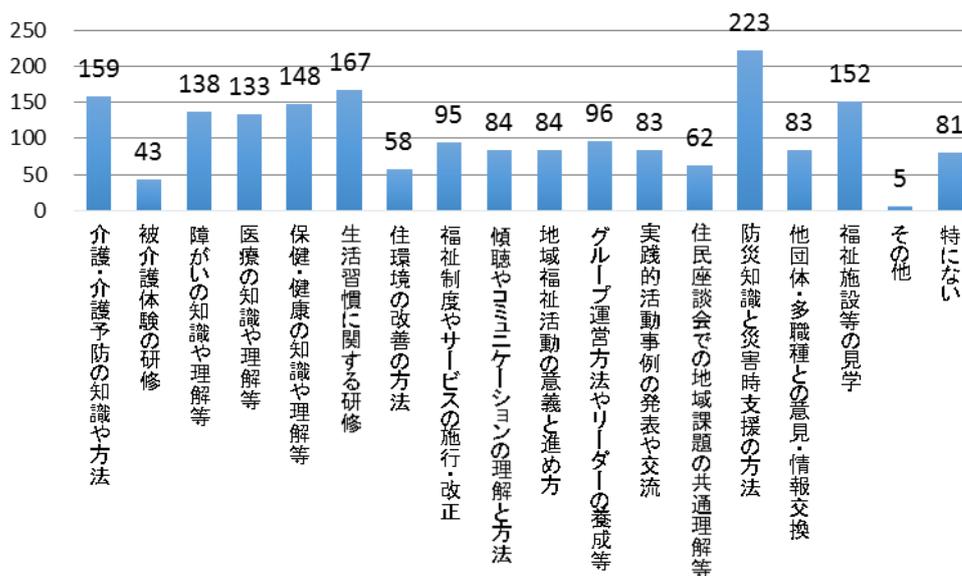
質問13は、活動を踏まえ、学んでみたい研修について問う設問であり、一人の回答者が18の選択肢の中から平均2.8の複数回答をし、総数は1,894件であった。

防災知識と災害時の支援方法が223件と最も多く、生活習慣に関する研修167件、介護・介護予防の知識や方法159件と続いていた。これは、日常生活の安心・安全を求めていくということの表れであろうと思われる。

また、福祉施設等の見学152件と続いており、福祉施設の取り組みやノウハウなどを日々の活動に活かしていきたいと考えていると推察される。

そして、保健・健康の知識や理解等148件、障がいの知識や理解等138件、医療の知識や理解等133件へと続き、活動者としての知識の醸造につながる研修機会の提供についても、一考を講じる必要があるようだ。

図16 学んでみたい研修別



質問14は、「こんなサービスがあったらいいな」と「こういうことなら参加できそうだな」といった取り組みについて自由に記載する設問であり、全文については、資料1（P23）、資料2（P29）を参照してもらいたい。

「こんなサービスがあったらいいな」の内容では、高齢者支援、介護支援、障がい者支援、幼児・学童支援、医療支援、地域の生活環境支援、行政等の対応要望等が挙げられ、103件（15.0%）の回答があった。

また、「こういうことなら参加できそうだな」の内容では、高齢者支援、介護支援、障がい者支援、幼児・学童支援、医療支援、地域の生活環境支援、行政等の対応要望、外出支援、仕事の支援等、多岐に渡る項目が挙げられ、57件（8.3%）の回答があった。

最後の質問15は、今後の地域福祉を進めていくうえでの意見やアイデアについて、質問14と同様、自由記載としており、全文については、資料3（P31）を参照してもらいたい。

これについても、高齢者支援、介護支援、障がい者支援、地域の生活環境支援、行政等の対応要望、社協に関する事、ボランティアに関する事等、191件（27.8%）と多くの意見が寄せられた。

4) クロス分析

これまでは1つ1つの質問ごとに分析したものについて示したが、次からはクロス集計（2つ以上の質問を組み合わせる集計）したものを、より深く分析していきたい。

1. 現在支援している取り組み（質問7-1）と今後支援が必要だと思う取り組み（質問7-2）

図17は「質問7-1」から「質問7-2」を引いた差異が大きい順に表をまとめたものである。

これは言い換えると、今は支援できていないが必要だと感じている人が多いものとなる。詳細内容を見ていくと、1番目に緊急時や災害時の手助け94件が挙がり、2番目以降、医療機関への送り迎え90件、買物代行72件、病児の支援66件、買物同行61件などへつながっている。

これらの項目のほとんどが生活支援サービスに該当しており、なおかつ、上位に挙げられていることがわかる。

また、図の右欄は、この結果に、実費弁償を求めても良い活動（質問11-1）の件数を組み合わせたものである。差異が大きいものは、実費弁償を求めても良い活動の回答件数も多いことがわかる。

よって、これらの生活支援サービスは、実費負担を求めても良い活動であると福祉実践者は感じているということが浮き彫りになった。

図17 現在支援できていないが今後支援が必要な取り組み

× 実費弁償を求めてもよい取り組み

差が大きい上位の項目 (全体687件)	A支援している 取り組み	B今後支援が 必要な取り組み	差異(B-A)	実費負担を求め ても良い活動
①緊急時や災害時の手助け	169	263	94	-
②医療機関への送り迎え	49	139	90	263
③買い物代行	39	111	72	230
④病児の支援	14	80	66	165
⑤買物同行	37	98	61	180
⑥空家の見回り	85	141	56	169
⑦医療機関への付き添い	38	92	54	189
⑦郵便物の確認	38	92	54	114
⑨散歩の付き添い	21	74	53	-
⑩外出先への送り迎え	42	92	50	203
⑰雪かき	172	211	39	309
⑳草取りや庭の掃除等	87	101	14	256

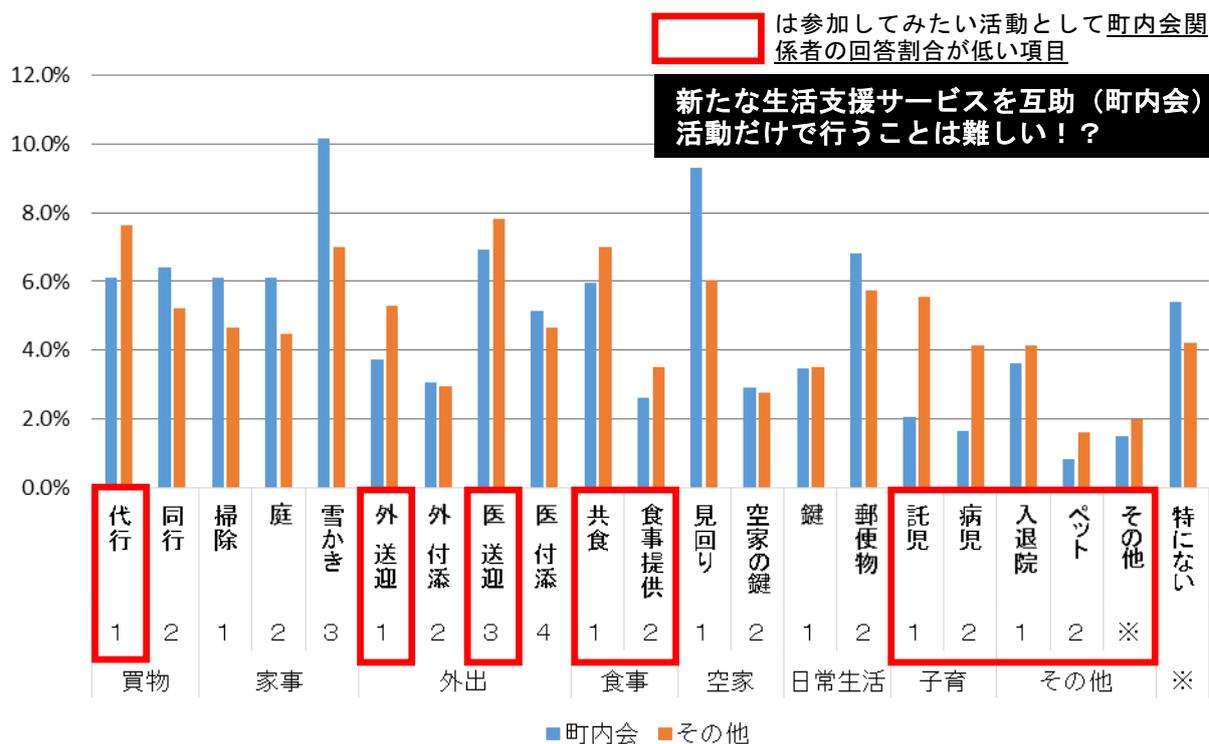
2. 回答者の福祉活動内容（質問5）と参加してみたい活動（質問11-2）

図18は、福祉活動内容を「町内会活動をしている方」と「その他の活動をしている方」で分類したうえで、参加してみたい活動とクロス分析したものである。

四角で囲まれた項目は、参加してみたい活動として町内会関係者が答えた割合が低い項目である。また、これらの項目は、生活支援サービスに該当するものでもあり、今後新たに生活支援サービスを構築するにあたり、町内会の互助活動だけで取り組むことは難しいと推察される。

このことから、町内会関係者や民生委員・児童委員等といった活動の垣根を取り払い、有償化も念頭に置いたうえで、活動者の発掘を行うとともに、サービスを提供する環境や仕組みを作っていく必要がある。

図18 福祉活動内容 × 参加してみたい活動



3. 活動者の年齢別（質問2）と社協に求めるもの（質問12）

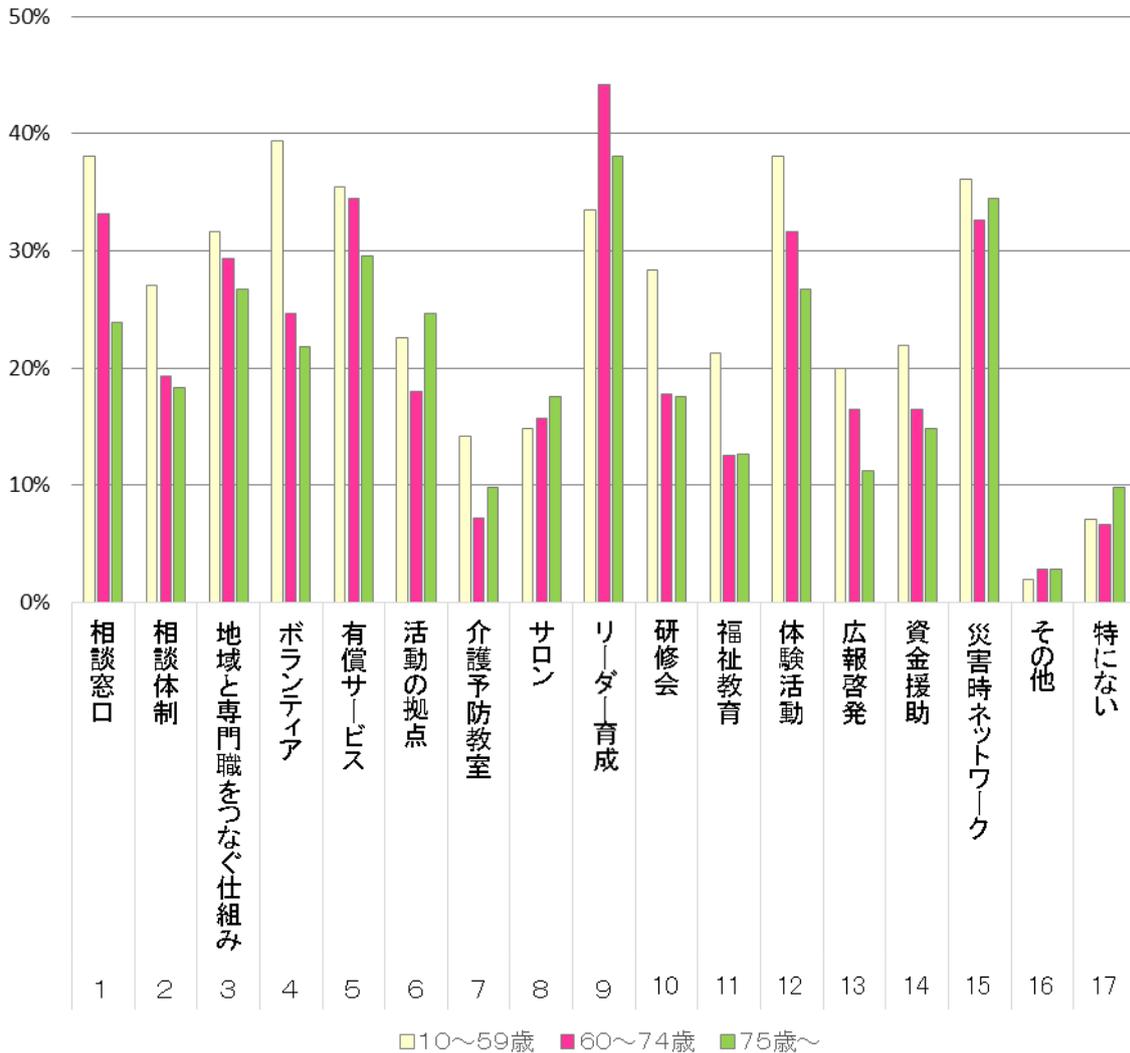
図19は、活動者の年齢を10～59歳、60～74歳、75歳以上に分類したうえで、社協に求めるものとクロス分析したものである。

10～59歳の区分で回答割合が多い項目としては、地域の相談窓口の設置や地域と専門職とをつなぐ仕組みづくりなど、ほとんどの項目で回答割合が高かった。現在、登別の福祉活動者うち、75%以上が60歳以上であることは、先にふれているが、これからの登別を担っていくであろう10～59歳の活動者は、今後の登別の展望を見据えた取り組みについて求めていることがわかった。

次に60～74歳についてであるが、団塊の世代を中心とした区分となっており、現在から今後10数年にかけて、活動の中核を担う年代である。この年代が求めているものとしては、活動のリーダーとなる人の育成と人材発掘であった。これらは、活動者自身のスキルの向上や、後進に期待しているものでもあろう。それぞれの活動には必ず核となるリーダーが必要であり、この年代の活動者が現在から次代にかけてのリーダーとなってくれるという心強さを感じた。

最後に75歳以上についてであるが、活動の拠点となる場所の確保と整備と、サロンにおける介護予防プログラムの充実の回答割合が高かった。つまり、地域の居場所の確保や機能充実を図ってほしいという気持ちの表れであるとともに、活動者と同年代の地域住民たちをおもっての回答であると推察される。

図 19 活動者の年齢別 × 社協に求めるもの

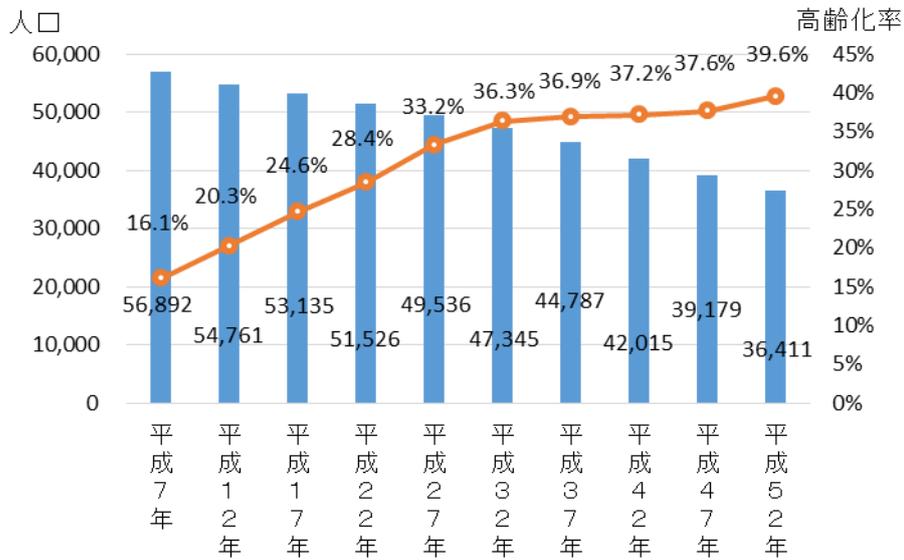


5) 分析を終えて

近年、日本は高齢化が社会問題となっているが、国際連合や世界保健機関の定義によると、総人口に対する65歳以上の高齢者人口が占める割合が7%を超えた社会を「高齢化社会」、14%を超えた社会を「高齢社会」、21%を超えた社会を「超高齢社会」とされている。

ここで登別市における高齢化率の推移(図20)を見てみると、平成17年(2005年)にはすでに超高齢社会を迎えていることが判る。平成52年(2040年)には約40%、10人に4人が高齢者になるという推計もある。少子高齢社会が及ぼす深刻な状況が、数値で示されているが、すでに暮らしを圧迫している現実にもどのように対処すべきなのか、今まさに問われているのである。

図 20 登別市の人口と高齢化率の推移



※総務省 国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所
将来推計人口（平成25年3月調査）より引用

このアンケート調査の大きな特徴は、福祉の最前線で長年地域支援活動をしている実践者に焦点を当て、その福祉意識や活動の実態を把握したことにある。地域福祉への関心や問題意識も高い人たちの切実な声は、この分析を通して、現実の福祉課題にいかに関わり向かっていくのかを、如実に語っているのである。

「きずなづくり」には、時間も手間もかかる。しかし、10年という歳月を惜しみなく「きずなづくり」に注ぎ邁進してきた人たちのおもいを、しっかりと受け止め、これからの登別の10年、20年を見据えながら、次世代のためにも「まちづくり」を継承し続けなければならない。

その道標を、687人の実践者が指し示してくれた。貴重な財産である実践者の声は、文字に姿を変え、このきずな計画に刻み込まれた。今ここに「きずなでまちづくり」の新たな一歩が踏み出されたのである。

2. 福祉事業所を対象とした福祉アンケート調査の結果分析

生活支援サービスの仕組みづくりは、地域で安心して暮らしていくための必要不可欠な取り組みである。しかし、きずなが目指す生活支援サービスは、既存の介護施設や障害福祉施設、NPO法人などの福祉事業所と連携・協働して提供されるものである。そして、地域で暮らす様々な人々の生活が護られるものでなくてはならない。

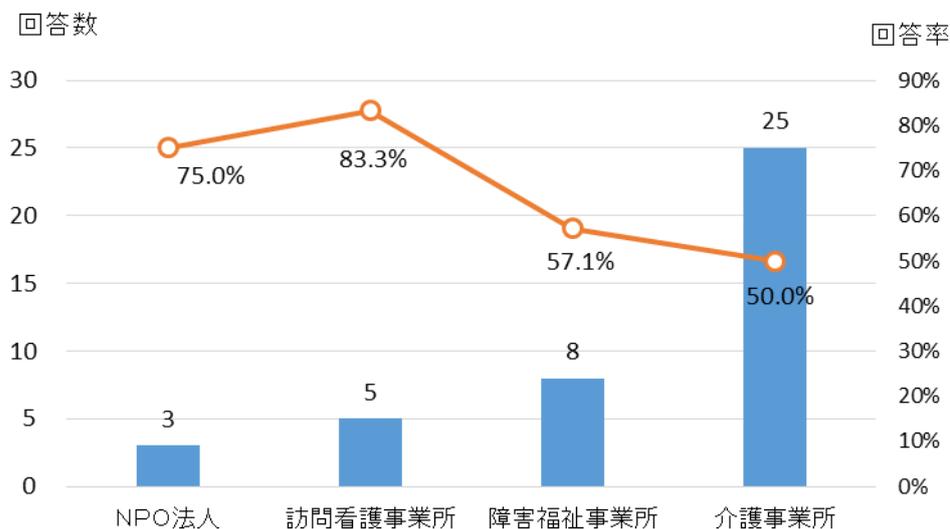
そして、生活支援サービスの仕組みづくりにあたり、福祉事業所とどう連携し、どのような協力を得ることができるのか、そこがこのアンケート調査のねらいであり、地域住民の暮らしや身体機能の維持向上など、公的なサービスとして専門的に取り組んでいる、介護施設や障害福祉施設、NPO法人などの福祉事業所77か所を対象に依頼をし、41の事業所から回答があった。(回答率53.2%)

1) 回答事業所の特性について

最初は、回答事業所の区分について見たい。割合については、介護事業所25か所、障害福祉事業所8か所、訪問看護事業所5か所、NPO法人3か所の合計41事業所であった。

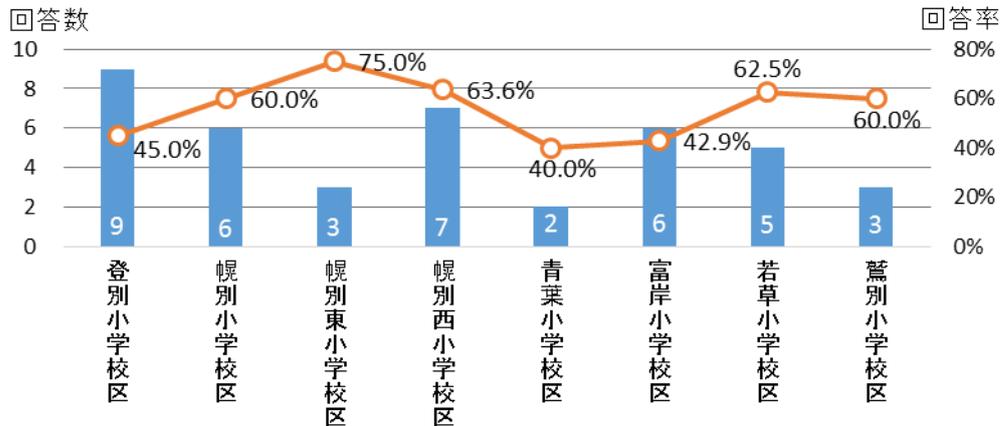
事業所ごとの回答率を見ていくと、50%~83%とばらつきがあった。また、分析を進めると、回答数が多い事業所は、回答率も高いということは一概に言えないこともわかった。例えば、介護事業所である。回答率は50%と低い、回答数は25と全事業所区分の中で一番多い。

図2-1 回答事業所の区分別



次に、回答事業所の所在校区別であるが、回答事業所の区分同様、回答数が多い校区は、回答率も高いということは一概に言えないことがわかった。特徴が大きく表れているのが登別小学校区である。回答率は45%と低い、回答数は9と全校区の中で一番多い。

図 2 2 回答事業所の校区別



事業所数は、区分や校区において偏りがあり、生活支援サービスのモデル事業などを今後展開する際には、校区により事業所数が大きく異なることも考慮する必要がある。

ここまでが回答事業所の特性について分析した基礎的データであり、このような特徴を持つ回答事業所の回答を基にして、分析を行っていく。

2) 回答事業所の生活支援サービスの現状と展望

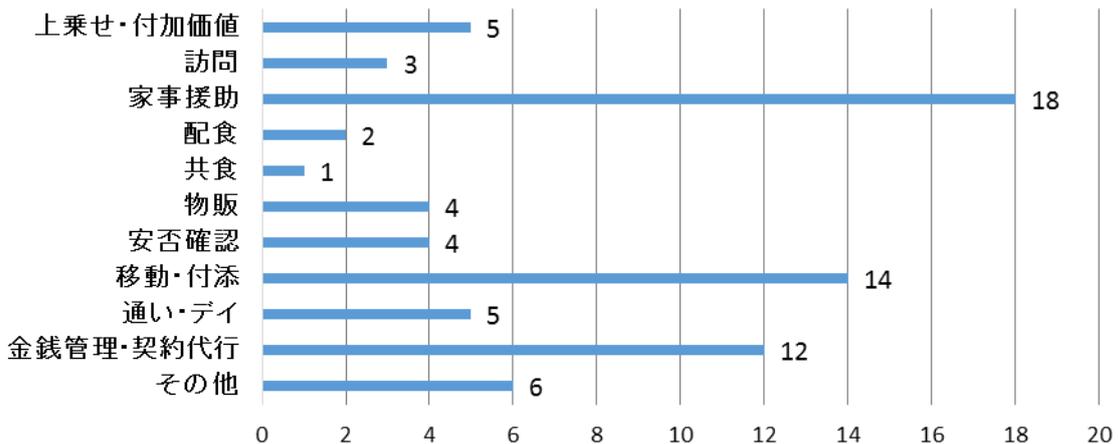
質問3は「現在提供しているサービス」と「必要性を感じるサービス」などについて尋ねた設問である。

まず、現在提供しているサービス別（質問3-1）の結果については、11の選択肢の中から回答事業所1か所につき平均1.8の複数回答をし、総数は74件であった。

生活に直結する家事援助が18件と一番多く、移動・付添14件がそれに続いた。家事援助や移動・付添支援については、福祉活動実践者アンケート調査の結果からも、地域に必要な支援として挙げられていた重要な取り組みであるため、図24、25のとおり、回答の内訳についても記載することとする。

また、金銭管理・契約代行12件については、高齢や障がいなどによる判断能力の低下から、金銭管理や諸制度の手続きに対する難しさなどにより、各事業所で必要に迫られ支援しているものと推察される。

図 2 3 回答事業所が提供している生活支援サービス別



家事援助については、買物支援が55.6%、掃除・洗濯・除雪が38.9%となっている。また、移動・付添支援については、通院付添が57.1%であり、外出付添が28.6%と続いた。福祉事業所と福祉実践者、それぞれの進むべき方向が合致しており、連携したなかでサービスを実施していくことも、大いに考えられる。

図24 家事援助 回答詳細別

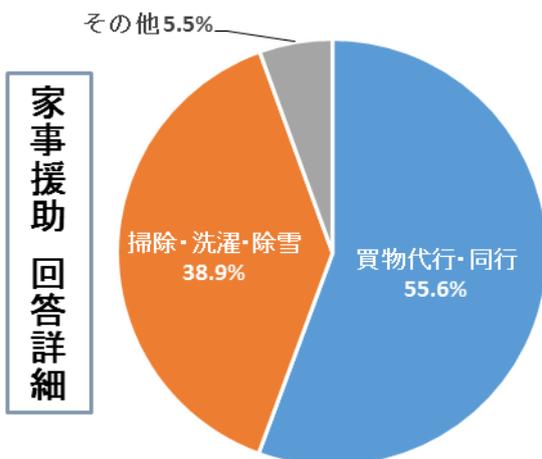
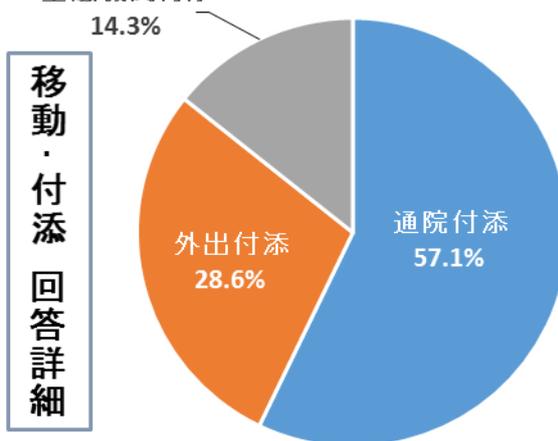


図25 移動・付添 回答詳細別
金融機関付添



次に、現在提供は出来ていないが、専門職として、今後地域に必要だと思うサービスと今後提供する予定があるサービス（質問3-2）について尋ねたものである。

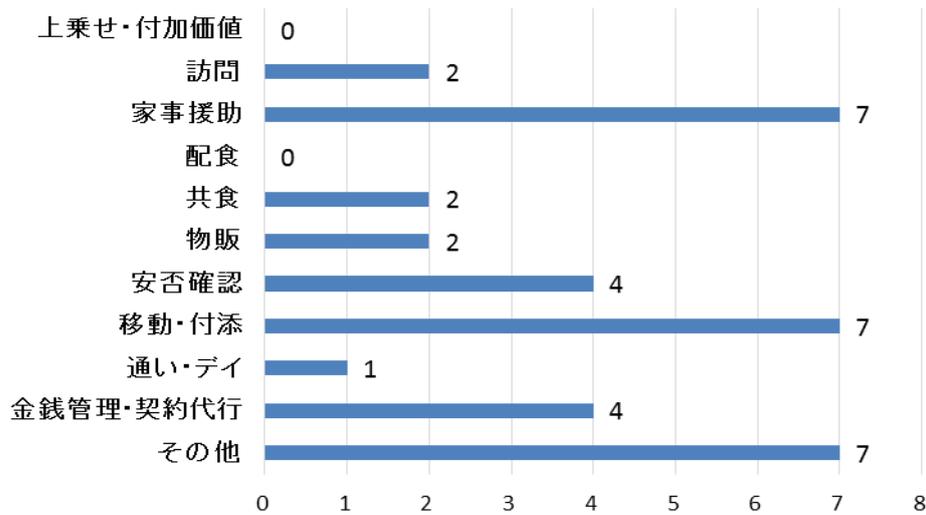
まず、回答事業所は必要だと思うサービスについて、平均0.9の複数回答をし、総数は36件であった。「現在提供しているサービス」の設問（質問3-1）同様、家事援助と移動・付添支援が共に7件と一番多かった。つまり、現在サービスを提供している事業所、していない事業所に関わらず、多くの事業所が必要だと考えているということがわかった。

そして、注目したい点は、これらの項目に分類することができない、「その他の意見」も同数の7件であり、その内2件は鍵の預かりと、緊急時を想定した回答でもある

福祉実践者向けアンケート結果分析において示したとおり、平成52年（2040年）には約40%、10人に4人が高齢者になるという推計があり、一人暮らしの高齢者が地域で安心して暮らしていくためには、必要不可欠な取組みであるとともに、ないがしろには出来ない意見であった。

次に、提供予定のサービスについては、家事援助、配食、安否確認、移動・付添について、それぞれ1件ずつ可能性があるという回答があったとともに、金銭管理・契約代行については、障害年金申請時の医師との面談において、知的や精神障がい者が自分の症状などを伝えることの難しさから、医師との間に入り申請を補助する取り組みを開始するという回答もあった。

図 2 6 今後地域に必要なと思うサービス別



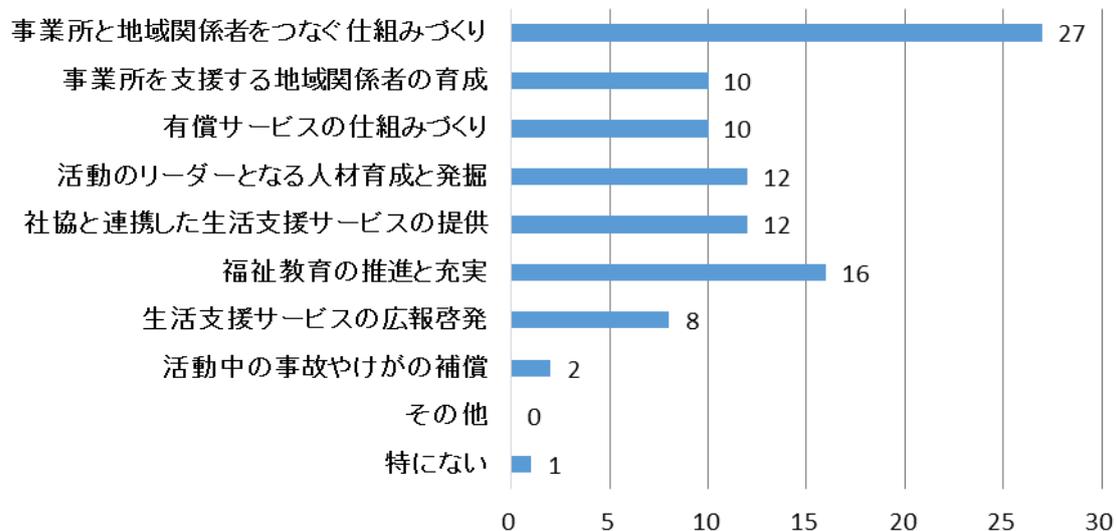
3) 回答事業所が考えるこれからの地域福祉活動

質問 4 はこれからの社協に求めるものを問う設問である。10 の選択肢の中から回答事業所 1 か所につき平均 2.4 の複数回答をし、総数は 98 件であった。

事業所と地域関係者をつなぐ仕組みが 27 件と 1 番高く、事業所として地域とつながり支援していく必要性を強く感じているが、橋渡し役がないということが推察される。また、ボランティア活動との連携については前問で触れているが、実際に連携する際には、誰がどのように活動するかを明確にすることも鍵であると言える。そして、福祉教育の推進と充実が 16 件と続いている。昨今、福祉専門職のなり手不足が社会問題として挙がっており、事業所も実際にそのあおりを受けていることと見受けられる。

これらは社協の強みでもあるため、特に力を入れて取り組んでほしいという事業所の強いおもいが感じられた。

図 2 7 社協に求めるもの別



活動のリーダーの育成と人材発掘、社協と連携した生活支援サービスの提供が、共に12件と3番目について。

まず、活動のリーダーの育成と人材発掘についてであるが、これは実践者向けアンケートにおいて回答数が最も高い項目であり、リーダーの存在は、どの活動においても必要不可欠であるということを改めて感じるとともに、社協の使命として人材育成に取り組んでほしいという期待を強く感じた。

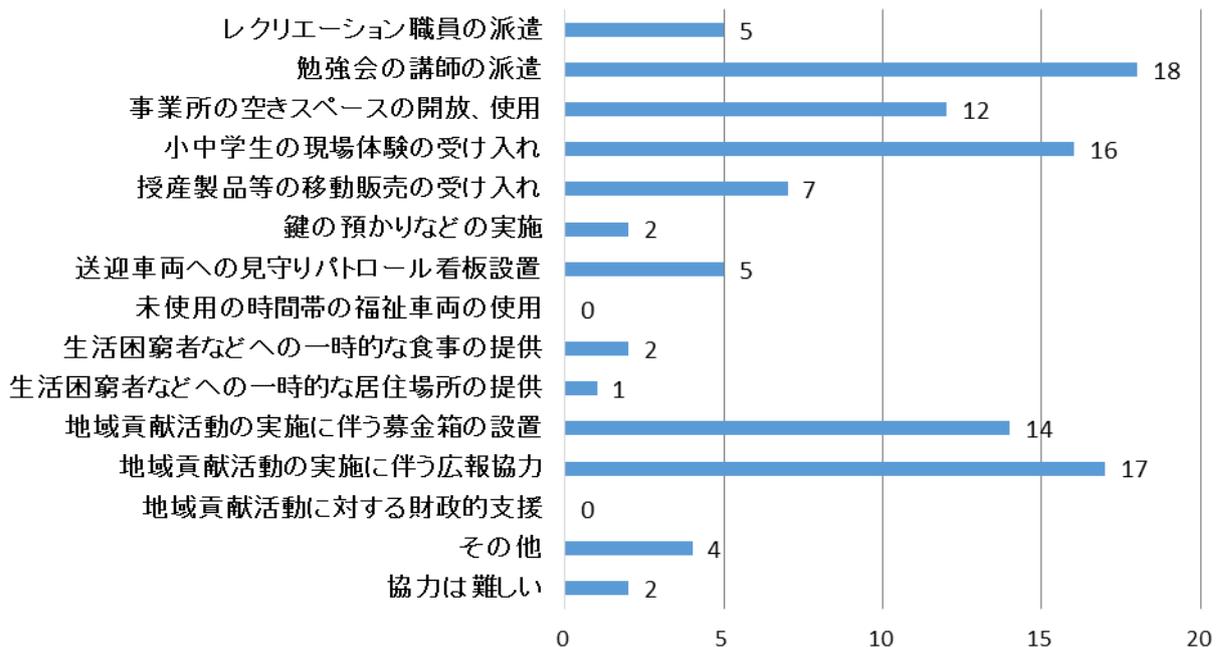
また、社協と連携した生活支援サービスの提供であるが、この福祉事業所向けアンケート分析の前段に、『きずなが目指す生活支援サービスは、既存の介護施設や障害福祉施設、NPO法人などの福祉事業所と連携・協働して提供されるものである。』と明記しており、まさに、これに呼応するように多くの事業所から回答があった。この後ろ盾を得て、福祉事業所と連携・協働した生活支援サービスの構築に取り組んでいかなければならない。

質問5は、地域貢献活動として協力可能な取り組みについて問う設問である。15の選択肢の中から回答事業所1か所につき平均2.6の複数回答をし、総数は105件であった。この地域貢献活動は、社会福祉法人をはじめとする事業所などで今後求められてくるものである。

地域での勉強会の講師の派遣が18件と最も多く、地域貢献活動の実施に伴う広報協力17件、小中学生を対象とした現場体験の受け入れが16件と続いた。直近の問題だけではなく、将来を見通した取り組みが必要であるという専門職のおもいを垣間見ることができた。

また、ここで注目したい点としては、鍵の預かりなどの実施について2つの事業所から回答があったことだ。この鍵の預かりについては、第3期きずな計画策定に当たって、地域包括ケアPTや障がい福祉PTからも今後地域に必要なだという意見が挙がっている項目である。鍵の預かりサービスの展開に向けた力強い後押しをもらう結果となった。

図28 取り組み可能な地域貢献活動別



最後の質問6は、今後の地域福祉を進めていくうえでの意見やアイデアについて自由記載とした設問であり、7件（17.1%）の意見が寄せられた。事業所としての協力体制や生活支援サービスの展望など、専門職ならではの意見が挙げられた。全文については、資料4（P48）を参照してもらいたい。

4) クロス分析

回答事業所の区分（質問1）と協力可能な地域貢献活動（質問5）

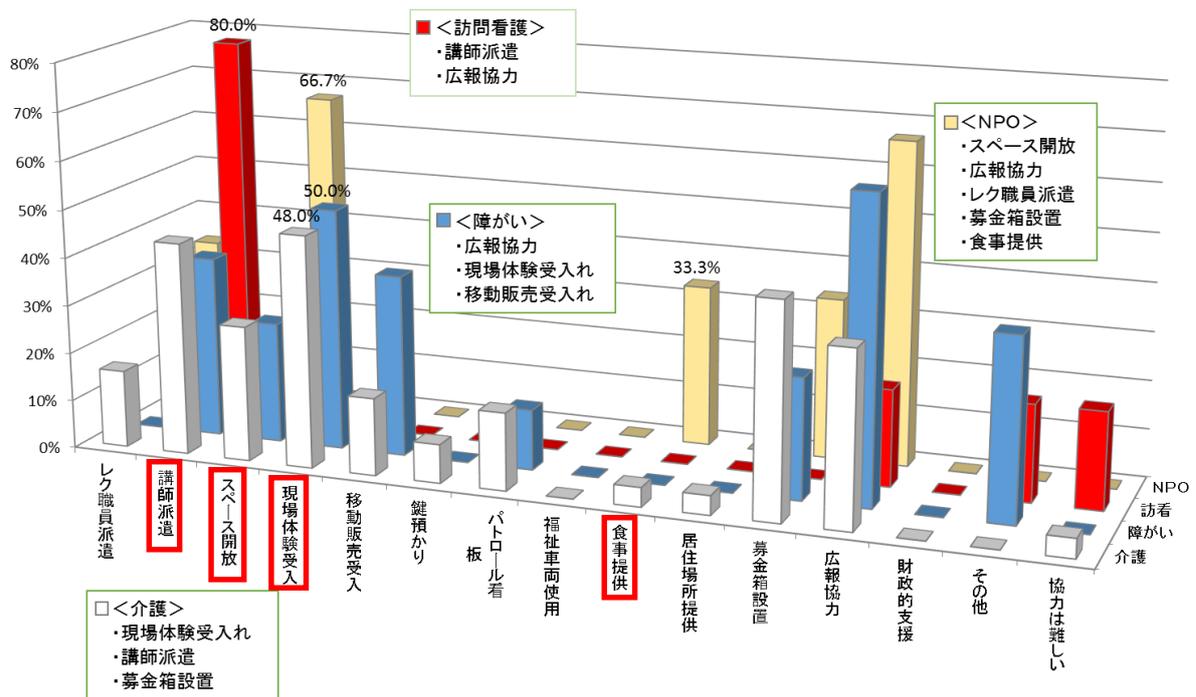
図29は「質問1」と「質問5」をクロス分析したものである。

これを見ていくと、事業所の区分によって協力可能な地域貢献活動に特色があることがわかった。

まず、「勉強会の講師の派遣」については、回答のあった訪問看護事業所の内、80%の事業所において協力可能であることや、「事業所の空きスペースの開放、使用」については、NPO法人（66.7%）が、「小中学生を対象とした現場体験の受け入れ」については、介護・障害福祉事業所において、それぞれ50%程度の回答があった。また、「生活困窮者などへの一時的な食事の提供」については、NPO法人から回答があった。

これらの項目を見ていくと、それぞれの事業所の強みが大きく表れる結果となった。

図29 回答事業所区分 × 協力可能な地域貢献活動



5) 分析を終えて

今地域に求められていること。それは、福祉事業所と福祉実践者が連携・協働したなかで、それぞれの強みを活かしつつ、地域福祉を推進することにある。これをなくして、これからも改正されていく法や制度への対応はもちろん、地域福祉課題を共有し解決に向けて協働することは難しい。

では、登別における実情はどうか。福祉事業所と福祉実践者がおもいを共有し、実践されているのだろうか。事業所の活動として、今後予想される「地域貢献」に着目して考えてみたい。それは、アンケートで社協に求めることとして、「事業所と地域関係者をつなぐ仕組みづくり」に65.9%の事業所が、その意向を示していたのである。それを「地域貢献」活動としてリンクさせて、地域と事業所と結びつけていくネットワークとしての機能を果たすのは、社協以外にない。それぞれの地域の実情により、ニーズや活動の展開の方法も異なるが、ここで図30を見てもらいたい。これは、福祉事業所と福祉実践者の今後のつながりに対する、ネットワークあるいはソーシャルワーカーとしての力量が問われる、社協の関わり方を示したものだ。縦軸は事業所が実践者と、横軸は実践者が事業所と、それぞれつながりたいかを表している。

④は、事業所、実践者ともにつながりたいと考えている地域であり、良好な関係であるといえる。

ここでは協働の関係を構築するための前向きな取り組みが期待される。

②は、事業所はつながれない、つながりにくいと考え、実践者はつながりたいと考えている地域であり、事業所への働きかけが必要な地域である。

③は、②と反対で、事業所はつながりたい、実践者はつながれない、つながりにくいと考えている地域であり、実践者への働きかけが必要となる地域である。

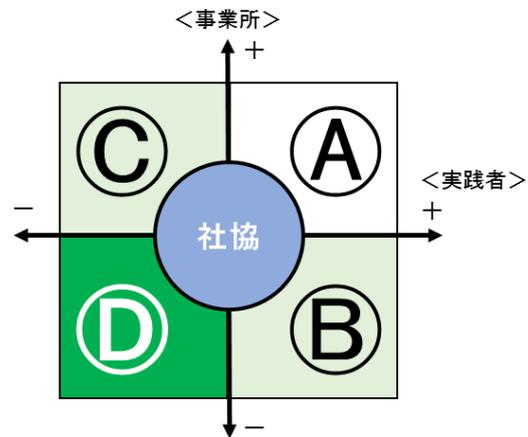
問題は①である。この地域は、事業所、実践者ともにつながれない、つながりにくいと考えている。社協は特に力をいれて、この地域に対する働きかけを行っていかねばならない。

社協には、きずなの実践を通じて、堅実に築き上げた地域と人とのつながりがある。社協にしかできない役目だと断言する。

つながりは、ゴールではない。スタートである。事業所と実践者、それぞれの地域のおもいを束ね、カタチとするために、社協は、その下支えをする。

このアンケート調査から、地域福祉を進める新たな担い手として、福祉・医療との協働ネットワークの構築が、超高齢社会を切り開く重要な鍵となり、希望の扉を開ける。

図30 事業所・実践者に対する
社協の働きかけ



**【資料 1】 福祉実践者向けアンケート調査 質問 14-1
こんなサービスがあったらいいな**

＜凡例＞

- A. 市あるいは社協で実施済 B. 既に実施済(町内会・民児協・NPOなど)
C. 今後の課題として要検討 D. 個人の問題として整理
E. 現状では対応が困難

1. 高齢者支援		A	B	C	D	E
1.1 見守り	・ お年寄りの見守りや話し相手(個別の)。		○			
	・ 安否確認体制の充実(町会において)	○				
	・ 独居老人宅の定期巡回	○				
	・ 消極的な人達を孤独にさせない為の対応を考え、寂しさや不安を取り除いて行けたらと日々思っています。(特に独居老人宅)				○	
	・ 町会に気軽に集まってお話しできる場所があると良いですね。あってもお世話をする人がいなければダメなんです。お世話をする専門の方がいると良いですね!	○				
	・ 送り迎えを受けなくても各地域に福祉サービスをしている家庭的雰囲気がある居場所があると良いとおもう。	○	○			
	・ 一人暮らしの家庭が多く、詐欺の取り組んでほしいのと、自分たちも更に勉強をしなければと考えています。	○	○			
1.2 日常支援	・ ゴミ出し等の支援が欲しい。			○		
	・ 外出支援			○		
	・ 買い物難民が増しており車での移動販売があれば良い。			○		
	・ 訪問美容・理容			○		
	・ 自宅で元気で過ごすことが出来たら最高です。				○	
1.3 家事支援	・ 町会における除雪隊を編成してサービスに取り組む。			○		
	・ 雪かきや草取りなど。			○		
	・ 学生による雪かき					○
	・ 高齢者の多い地域なので、除雪サービスが絶対に必要だと思います。			○		
	・ 冬の玄関周りのちょっとした雪かき			○		
	・ 「高いところの窓ふき」、「客布団を活用してくれるところ」、「物置の掃除」			○		
	・ 月に1回程度(多ければ多いほど良い)独居高齢者、希望する高齢者を集め、無料ではなく、有料(材料費原価の範囲内)で昼食会を開催し、現状や悩みことを聞く会をし、おしゃべりをする。場所は町会会館を利用する。			○		
	・ 留守時のペットの世話(えさやり、散歩)、草取り、除雪のサービス			○		
	・ 現実に老人夫婦世帯の我が家は、いつも除雪に泣いています(除雪車の雪)。有料でも「除雪団」を作ってもらったら、サービスを受けたいと思っている家が多数あると思いますが…。			○		
	・ ちょっとしたこと。電球の取り換え、買い物代行、年賀状代筆などの便利屋さんのサービスがあったらいいですね。			○		
・ ゴミ収集日に、ゴミ出しが大変な方の支援。傾聴ボランティア。町内会で、月1回程度集まり、茶話会などがあれば。			○			
1.4 体制・援助支援	・ 高齢者の話し相手の場として町内会に歩いて集合できる場があると良い。	○	○			
	・ 高齢者の住宅(介護付き住宅など)が市、道営管理で福祉の街らしく沢山あったら良い。	○				

1. 高齢者支援		A	B	C	D	E
1.4 体制・援助支援	・ 集う場所があり、おしゃべり、軽運動、ゲームなど誰でも参加自由にして、無料がいい。いつ行っても何かしていて、誰かがいる、そんな場所。 ⇒サロン？		○			
	・ 福祉食堂：高齢者が集い、食事、交流、くつろげる場の提供を目的とし、持ち込み自由で、希望者には、安く（500円程度）食事を提供 ⇒サロン？	○	○			
	・ 近所に一人暮らしの人々のためのワンコイン、500円で食べれる昼食を出してくれる食堂が有ればよい。		○			
	・ 食事サービス。お年寄りが楽しく過ごせる場所。		○			
	・ 低料金でゆっくりくつろげるような食堂など、誰でも気軽に立ち寄れる場がほしい。		○			
	・ 有償でも良いから、一寸してもらいたい事を頼めるボランティアの人がいたらいいな～と思っています。		○			
	・ 諸事のことに対応できる、実費負担のサービス隊を作っ てはと思います。介護保険では対応できないことが多くあ ると思います。NPO、または、シルバー人材センターな どの対応でも良いのではと思います。		○	○		
	・ 町内会単位とか規模が小さくても、顔見知りの方々が気 軽に声を掛けあってボランティアに参加できることが望ま しい。		○			
	・ 各町内会館の常日解放 ・ 買物等の無料巡回バス		○	○		
2. 介護支援		A	B	C	D	E
2.1 研修の充実 2.2 介護施設の充実	・ 介護・育児支援を充実させ、保育を理解して研修（介 護・保育等）ボランティアをしていくと良いと思います。	○				
	・ 夫婦で入れるケアハウスを介護を持つどちらかではな く、夫婦共に元気であれば共に安心して暮らせるのではな いか。	○				
	・ 介護保険法では提供できないサービスを地域の住民が支 える体制。			○		
	・ 食事の宅配サービス。家内外の清掃サービス。福祉タク シー（低料金で）お出かけの手伝いサービス。入浴サービ ス。 ・ 低額有償の通院送迎サービスお風呂の送迎・介護サービ ス	○		○		
3. 障がい者支援		A	B	C	D	E
3.1 見守り	・ 障がい者への個別支援			○		
3.2 日常支援	・ 障がい児、者の夜間や日中過ごせる場所があり、ボラン ティアさんや住民が楽しめるサービスがあれば…。			○		
3.3 体制・援助支援	・ 18歳以上の重度身体障害者は、自宅での入浴が困難で す。訪問入浴者によるサービスもありますが、浴槽が狭 く、入浴を楽しむことが出来ません。現在18歳未満を対 象に行っている事業所に、送迎して入浴するサービスを、 18歳以上に対しても拡大してほしい。			○		
	・ 障害者・児・高齢者（家族のため）のショートステイが もっとあれば、家族の負担が軽くなり、生活が充実するの ではないでしょうか。			○		
4. 幼児・学童支援		A	B	C	D	E
4.1 預かり制 度の充実	・ ファミサポの様な感じで小学生や中学生を預かって ちょっとしたお話や一緒に食事をしたりする。			○		○
	・ 子どもが急に熱を出したりしても仕事を休めない時に迎 えや対応をしてくれる場所や人。			○		
4.2 子育て支 援	・ 本の読み聞かせ（1日1時間くらい）		○			

5. 医療支援		A	B	C	D	E
5.1 医療機関への送迎	・ 高齢者が多く病院への受診に苦勞をしている現状、定期的に病院まわりの車両を配置していただけると助かる。			○		
	・ 1人暮らしで病院に行けない人の医療機関への車のサービス。		○			
	・ 総合病院への通院（バス代の補助、割引など）			○		
	・ 病院受診の予約					○
5.2 健康相談	・ 健康について医療関係。	○	○			
	・ 町会もお年寄りが多くなってきましたので、3か月に1度くらい、血圧測定や軽い運動などを指導して下さる方が来てほしいです。	○				
	・ 「元気でいる夫が、時々おかしな行動が見られる。どのように見守ったらよいか？」日常生活での小さなことを気軽に相談できる窓口がほしい。	○	○			
	・ 自宅療養中ですが、楽しく、自発的に運動に出かけることが出来る何かがあれば。			○		
	・ 医療費が安くなってほしい。病気になったら支払いができるか心配です。					○
6. 地域の生活環境支援		A	B	C	D	E
6.1 行政サービスの充実	・ 地域の人がいいつでも集える場所の提供。また、それを支えるスタッフの強化、食事の提供、世代間の交流。	○		○		
	・ 町内会、サロンなどに社協のバスとか市バスとか使えたら限られた温泉（送迎バス有り）にしか行けないのもっと色々な温泉に行けるかも。					○
	・ ここは上登別で移動式の販売車が来れば良いと思う（お店がないため）。もう少しバスの便を増やしてほしい。登別駅に行くバスが欲しいです。					○
	・ 世界一とか日本一と言われる温泉があるのに中々いけない。				○	
	・ 定期的に、町内会単位で、近くの温泉（登別温泉、カルルス温泉）への無料バスが運行されたらいいなと思っています。町内会のところから出発であれば、近所誘い合っで、また、町内会行事の1つとして役員共々参加できるかと思っています。			○		
	・ 年に一度でも地域のお年寄りをバス送迎で温泉入浴。予算は無いと思われませんが…。数年に一度の割合であれば、格安料金徴収も可能ではないでしょうか。			○		
	・ 市民後見制度	○				
6.2 人材活用	・ シルバーテクニシャンクラブ：地域には様々な高度な技術を持った高齢者がいる。この技術を有効に利用することにより、サービスを受ける人に限らず、本人の生きがい、健康維持、向上にもつながる。			○		
6.3 その他	・ 町内会の行事においても中学生、高校生の参加が出来る方法はないだろうか。大人だけでなく、中高生の町内会役員が望ましい。		○			
	・ 公園などを利用して小運動や小ゲームなどを企画し、活動できるシステム。					○
7. 行政等の対応		A	B	C	D	E
7.1 公的支援の充実	・ 手続き等（官公庁や銀行、郵便局）、振込み等（高齢化により宅配や通販購入など増えてくる）をきちんとやってほしい。					○
	・ 通帳やキャッシュカードなども預けることになってききちんと安心して依頼できる（勿論、有償で少々高めに設定すること、委任状持参ですることなども）	○				

7. 行政等の対応		A	B	C	D	E
7.1 公的支援の充実	・ 施設の中（社協の中など）に金融機関のキャッシュコーナーがあれば便利。					○
	・ 車を運転できなくなったら困るため、銀行、郵便局での入出金や振込み、官公庁への手続きなど有償での同行。	○	○			
	・ 様々な提出書類は高齢者にとって負担が多すぎるので、代筆サービスがあると良いと思う。私の母も、よく見えなから自分では書けません。	○	○			
	・ 平成28年より電力の小売前面自由化が始まります。この相談対応が必要と思われまます。よろしく対応願います。				○	
7.2 日常生活の支援	・ 地域のボランティア活動を行なってみて、いきいきサロン、老人会、町会へのイベントなどが行われたのに参加してくれる方は良いのですが、家から出ない方、ひきこもりの方、出られない方へのサービスとして、広報誌の内容を考えて、情報を伝えていくことが出来たらと考えています。			○		
7.3 施設の有効活用	・ 近隣に空いたスペース小学校の空き教室を利用する等、自発的に行動していろいろとためして失敗してもまた、別の試みをやってほしい。職員、老人、地域の間が本気でやってほしい。			○		
	・ 誰もができるスポーツの取り組み					
7.4 体制・援助支援	・ 社協の職員による「きずな」説明会を希望	○				
	・ 市、社協、連町、町内会が連携し、住民の声を聞く、身近な機関の設置が必要であり、そこから対話が始まり、安心、安全で暮らせる社会が出来ると思っています。	○	○			
	・ 専門的な問題に関する相談場所。	○				
	・ 地域民生委員、社会福祉専門職、地域役員の3者で協議できる体制が必要。	○				
	・ 高齢者対策として、介護境界にいる者達への呼びかけが必要ではないか。自分でどうにか生活できるがすぐに介護が必要になる人たちへの対策に手が届いていない。				○	
	・ 高齢者や障がい者など、区別なく何か困りごとがあったり、話し相手が欲しい時など、誰もが利用できるサロン、誰もが立ち寄ることのできるサロンがあるといいと思います。	○	○			
	・ 毎年度ごとに、過去の支援・相談内容（Q&A）に対する連絡・相談窓口（専門機関）のリスト表があれば参考になる。					○
	・ 文化的なものが必要と思います。それには文化協会との連携を考えて欲しい。	○				
	・ 町内会などで気軽にできる運動施設や体育館などがもっと身近にあると高齢化社会になった今頃では、みなさんが交流を深め、より良い体力作りが出来ると思っています。また、ジョギングなど道路を整備し、車社会になった今では安心して外を気軽に歩くことが出来ません。道路を良くしてほしいです。					○
	・ 1か所にいろいろな必要を満たす窓口、相談所、居場所があること。	○		○		
	・ 高齢者世帯の様子を遠くに住む家族などに定期的に電話やメールで連絡してくれるサービス。			○		
	・ ボランティア活動に参加して下さる住民がたくさんいてほしいと思います。				○	
・ 近くに気軽に行けるコミュニティーセンターのような場所。			○			

7. 行政等の対応		A	B	C	D	E
7.4 体制・援助支援	・ タブレットによる地域情報の発信や災害・緊急時の活用、支援			○		
	・ 相談援助実務の実習	○	○			
	・ 老人の何かの集まりのときに、軽い体操を指導してくれる人の要請（事前に連絡したい）	○	○			
	・ 通学支援	○	○			
	・ 市の福祉のしおりなどを拝読すると、多種多様な制度の説明があるが、具体性がない。例えば、独居老人が年金も少なく、施設に入りたくても、あまりにも高額で、入所できない。また、満杯で入れない。出来れば老健施設等が高齢者に合う件数有れば良いと思う。				○	○
	・ 悩みや相談ごとが出来る場所があったらいい（近くに）	○	○			
	・ ボランティアにも限度があるので、予算面を十分に検討してほしい。			○		
・ 80代、1人暮らしの女性。息子さん夫婦は遠方で、10年前に亡くなったご主人の墓が来るまで30分のところにあるが、一人で行くには不安。タクシーを使ったら、往復でかなり高くなるので、金銭的にきつい。何人かをまとめて連れて行けるサービスがあったらいいと思う。			○			
8. その他		A	B	C	D	E
	・ 今までにこんなことを行ったことがないのでまったく知りません。				○	
	・ どんなに力を注いでも、すべてのことに満足することはありえないので、いい加減でも問題ないと割り切る必要があると思われる。高齢化社会、核家族化、福祉重視社会の中で、平等のサービスを追求することは所詮、ありえないと思われる、そこで、支え合いの中で、人間の最低限の尊厳を守る程度の施策を提案したい。①「いきいき・娯楽」「みまもり活動」の充実が町会を中心にした活動で実施する。②簡易な葬儀のお手伝いの実施は町会行事で補完する。（家族の負担減・身寄りのない方が多くなっている）③ボランティア活動にも有償サービスを採用する。（参加要因の拡大を図る）		○			
	・ ボランティア活動にはいろいろな分野がある。行政や社協、福祉団体、関連のある関係者はそれなりに、支え合いの福祉活動に努力している。しかし、一般市民は何を期待しているのだろうか、ちょっと引いて考えてみると、日常生活の中での関心事は多々あるが、やや自分本位に偏ることが多いように感じる。・生活費 ・健康 ・家族 ・いきがい、娯楽 ・隣近所の付き合い などに関することには興味をしめす。一方、行政等は幅広くサポートしているように見えるが、ボランティア活動に頼り、内容が浅く、市民の期待に満足していない感がある。					○
	・ 具体的に統計的に絞り込んだ問題があって解決策としてのサービスを求められているのであれば回答の仕方もあるが…。				○	
	・ 今のところ自分でどうにか出来ているので、今後お手伝いが必要になった時には、何かにつけ、お願いいたたくと思います。				○	
	・ 活動は、これからいろいろさせて頂きたいと思っておりますが、これから続けて行く上ででてくると思うので、今は答えが出ません。				○	

8. その他		A	B	C	D	E
	<ul style="list-style-type: none"> 美不二町会の子は、水元小、東明中学校区となっていることから、「きずな」からおきざりの感が強い。桜ヶ丘町会と併せて対応を充実させたいし、支援をお願いしたい。 	○				

103

【資料2】 福祉実践者向けアンケート調査 質問14-2
 こんなことなら参加できそうだな

<凡例>

- A. 市あるいは社協で実施済 B. 既に実施済(町内会・民児協・NPOなど)
 C. 今後の課題として要検討 D. 個人の問題として整理
 E. 現状では対応が困難

1. 高齢者支援		A	B	C	D	E
1.1 日常支援	・ 家事支援			○		
	・ 身の回りのお世話。			○		
	・ 高齢者に対し、また、よその方の日用品や食品などの買い物のお手伝い			○		
	・ 高齢者が若かった頃に帰れる、映画、歌などを、DVDなどで見せてあげる、聞かせてあげること。			○		
1.2 傾聴ボランティア	・ 話し相手(傾聴含む) ~ 7件			○		
	・ 80歳以上の一人暮らしの家には声掛けくらいは出来ると思いますので、役員さんと同じ班の方で回るのは参加出来やすいかと思います。		○			
	・ 1人暮らしのお年寄りへの声かけ。	○				
2. 介護支援		A	B	C	D	E
	・ 介護者・障がい者と共にプチ旅が出来るなら参加したい。			○		
	・ 老人施設に行って傾聴ボランティアを!			○		
	・ 慰問などの活動(ハーモニカ演奏ができるので)	○		○		
3. 障がい者支援		A	B	C	D	E
	・ 字を読みにくくなった方たちへの朗読奉仕	○				
	・ 身体の不自由な小学生などの学校の送り迎え等、出来る限り、相手の身になって寄り添ってあげたらうれしいです。	○				
4. 幼児・学童支援		A	B	C	D	E
	・ 本を読んであげる。			○		
	・ 一緒に勉強してあげる。		○	○		
	・ 子どもを預かる、年寄の見守り、運営スタッフ、他			○		
	・ 子どもと大人の遠足などの行事			○		
5. 医療支援		A	B	C	D	E
	・ 保険等の相談窓口(資格有るので)	○				
	・ 介護健康について	○				
6. 地域の生活		A	B	C	D	E
6.1 環境支援	・ 空家管理 ~ 2件			○		
	・ 会館開放日の当番		○			
	・ お年寄りや子どもたちとちょっとしたおしゃべりや、おやつを食べたり、お茶を飲んだり、個別にしてみたいです。なぜなら団体や集団の中にいると活発な子どもたちは色々なお話をしているが、おとなしめの子どもは話したくても入り込めないこともあるので、幼児だけでなく、ちょっと大きくなった子どもたちや1人暮らしの方々と交流を持ってみたいです。	○	○			
	・ お茶のみ会やこん談会等あれば参加可能です	○	○			
	・ 料理を一緒に作って、一緒に食べる。		○			
6.2 日常支援	・ ちょっとした雪かきでも老人や身体の不自由な人にとっては大変な作業だと思います。近くの家ならなんとか出来るかと。			○		
	・ 家庭内外の清掃			○		
	・ 近所の家の雪かきや草むしりくらいなら出来ると思うが、日時を決めて、毎日行う手伝いは、無理と感じる。ちょっとした声掛けや手伝いなら出来るのですが…。			○		

6. 地域の生活		A	B	C	D	E
6.2 日常支援	・ 地域のなかで協力し合って、自分のできることは参加させていたきたい（雪かき、買物の手伝いなど）。				○	
	・ 家事支援に記載されている内容であれば参加できそうだと思う。				○	
6.3 体制・援助支援	・ 頭では色々に参加したいと思いますが、仕事を持っているため、時間の使い方が上手でないので、短時間で出来るいきいきサロンの企画運営あるいは介護予防法等	○				
	・ 専門知識を研修形式で学び、活動してみようということ。	○				
	・ 軽々しく足を運べるような拠点づくりが大切で、参加も可能。	○		○		
	・ 福祉の内容を詳しく説明してもらい「きずな」の理解を得られるのではと思います。	○				
	・ 地域で得意としている技術等を持っている人を引き出し（趣味を持っている方かな？）少しの時間でも集まってお話ししてもらえる場所（議会）を上につつスタッフが作ってくれれば参加できる。	○				
	・ 肩がこらない場所の提供。			○		
	・ 気軽に参加できるコミュニティの場			○		
	・ 気軽に運動できる場所。自宅の近くに。			○		
7. 行政等の対応		A	B	C	D	E
	・ 行政が本気でやっていることであつたら参加できると思います。	○				
8. 外出支援		A	B	C	D	E
	・ 福祉施設の利用者さんの散歩や買い物の付き添い			○		
	・ 買い物の同行			○		
	・ 買物支援			○		
	・ 外出支援			○		
	・ 買物同行や買物代行			○		
	・ 腰痛を抱えているため、病院、買物の付添などが出来そうです。			○		
9. 仕事の支援		A	B	C	D	E
	・ 老人+病人を抱えているので時間に制約されず家の中で出来る。				○	
	・ 病人を抱えているので、出かけないでできること				○	
	・ チラシ折りや整理など、単純な作業				○	
10. その他		A	B	C	D	E
	・ 現在は訪問介護員としてフルタイムで働いているので、物理的に参加することはできませんが、時間があれば何でも参加することはできます。				○	
	・ 周囲に干渉しない。				○	
	・ 体力を使うことは無理。頭での奉仕なら可能。				○	
	・ 気軽に参加できるボランティア、事前受け付けなどなく、その場で参加できるシステム。				○	
	・ 参加内容は具体的に出ないのですが、子どもが学校に行っている平日の昼間に出来ることがあればいいと思います。土日、お父さんが休みのときだと、家族の時間を過ごしたい思いがあるので。				○	
	・ 土・日曜日参加は行事等で不参加の場合が多い。					○
	・ 福祉活動は地域の総責任は町内会に附すべき。地域人は町内会の役員しか知らない。				○	
	・ ずっと住み続けたいと願っている人たちの手助け、外出の機会や意欲をもたらして、いきいきさせてあげたい。	○	○			
	・ 健康であれば自分に出来ることなら、進んで協力させていただきたいと思っています。				○	
	・ 他団体とそれぞれの良さを活かして、共に取り組めれば良いと思っています。				○	

**【資料3】 福祉実践者向けアンケート調査 質問15
地域福祉を進めていくうえでの意見やアイディア**

<凡例>

- A. 市あるいは社協で実施済 B. 既に実施済(町内会・民児協・NPOなど)
C. 今後の課題として要検討 D. 個人の問題として整理
E. 現状では対応が困難

1. 高齢者支援		A	B	C	D	E
	・ 高齢者施設で音楽ボランティアの需要が高まっているが、各施設の依頼になかなか応えきれていない。音楽(または演芸)ボランティアの充実も図ってほしい。			○		
	・ 65歳から独居老人と呼ばれ一人になったら家庭訪問ということで一軒ずつまわってくるのがとても嫌です。近くに子どももいて元気なのにすごい年寄りになった気分です。				○	
	・ 地域ぐるみで…ということ考えると小学生(高学年)~高校生までも含め(話し相手やゴミ出し等)高齢者が孤独にならない様な支援も考えられるかと思えます。			○		
	・ いろいろな行事があっても遠方なので高齢者が出かけられない。各地区へ予算を出して、地区ごとでやってもらう		○	○		
	・ 介護・支援を受ける一歩前の人たちに対する健康への取り組み・活動強化。	○	○	○		
	・ 個人情報保護法に阻まれ情報収集が難しい。		○	○		
	・ 家にこもりがちな人をなくす取り組み。		○	○		
	・ 年齢を重ねるごとに、家の中での生活が多くなる。家の中のリフォームで高齢者に対するバリアフリー、手すりなどの設置内容と費用及び地域業者の選定リストがあれば、今後の参考になる。	○				
	・ 高齢世帯や一人暮らしの方々を地域や町内会で把握し、常に声掛けや見守りをしていく。	○				
	・ ご近所に自分より高齢者はいない。また、手を差し伸べなければならない要支援者はいても、それぞれの家庭内で対応しており、自分の気持ちはあるが、他人様の家庭の中を覗き込むような行動は節度を考えた時、余計な振る舞いは控えるべきと思う。しかし、頼まれた場合は、何時でも手を差し伸べる気持ち、心がまえは常にあります。				○	
	・ 高齢者の一人住まい世帯の訪問(本人、ご本人に了承のうえで)。	○				
	・ 希望者のみですが、障害、老人であるという目印を家に示し、例えば、除雪などのときには、玄関前の雪の工夫などしてほしい。			○		○
2. 介護支援		A	B	C	D	E
	・ 自宅で介護をしている人のために経済的な負担の少ないショートステイが利用しやすくなると良いですね。				○	
	・ 1泊程度の小旅行にたくさんの人と行く介護。					○
3. 障がい者支援		A	B	C	D	E
	・ 18歳以上の障害者がショートステイできる施設が登別にはありません。介護している親が倒れたり、突発的な急用ができた時などには、宿泊を伴う預かりの支援が必要です。親に何かあったら、障害者はどうすればいいのでしょうか?			○		
	・ 自宅以外での入浴付添。特に温泉入浴時のボランティアガイド					○

3. 障がい者支援		A	B	C	D	E
	<ul style="list-style-type: none"> 障がい者で言えば市役所やしんた21で障がい者の雇用を増やすべきだ。地域福祉と言っても老人福祉と障がい者福祉は別物であり、困っていることも違う。「きずな」だ「ぬくもり」とか言う前にもっと現実を知るべきであり、それを知らなければ形だけの福祉になってしまう。役所OBを再雇用するのであれば障がい者を雇用し、市民が障がい者に接する機会を増やすべき。市の福祉には何も期待していないが…。 			○		
4. 地域の生活環境支援		A	B	C	D	E
	<ul style="list-style-type: none"> 雰囲気づくりなど。会館開放にて軽食等を安価で用意し、お年寄りの孤独を防ぐためにいつでも立ち寄れる場所の提供、及び、片寄がちな食への対応、小さなお困りごとの相談等々、気軽に利用できる場所が必要かと。 子供との共有の場を大いに設けることで地域福祉活動が見えてくると思います。 まわって来る人たちが70歳過ぎているのに気の毒です。皆老人介護です。若い人は働いているし、70歳過ぎたら自分のことで大変な人もいます。仕方なく役員をしている人もいます。本当に困っている人、必要としている人を助けることは良いことですが、毎月のようにまわるのは嫌な人もいます。あまり入り込むのもどうかと思います。来てもらいたい人だけ聞いたらどうでしょう。大抵は子ども達が入り込んでいますから…。 転入して6年目、働いていたせいもあり、近所のことが良くわからない。高齢者が多いという印象。隣のおばあちゃんが足が悪いので回覧板だけは次の家に持って行ったり、雪かきを少し手伝うことはしている。近所との交流がないので、中々地域を考えることが難しい。 在宅介護のことなど、気軽に相談できる場所が増えると良いと思います。町内会の各班ごとに何でも相談出来る人を決めておくなどお年寄りなどが頼りになるなあと思える人が1人でもいると良いと思います。 いつも感じてはしますが、各町内会、連合役員が皆さん、高齢になっています。こうして書いている自分も高齢になっています。面倒を見ている自分が面倒を見られる年齢です。今は65歳からではないと年金がもらえない時代です。しかし、働いている若い人たちに今から少しでも地域のことを知っていただき、私たちの年代はサポート役にまわるようにして、若い人たちをお願いをして何とか、協力をして頂くようにしないと町内会などなくなるのではないのでしょうか。今は何事も町内会の役員になったら何の報酬もないのに用事は山ほどあります。こういったことを少しでも何かの話しに入れてもらいたいです。難しいことは十分わかります。 もっとも小単位な小地域ネットワークの組織として町内会が中心となっておこなっている回覧板を回覧する単位(班)を中心に班内の情報を把握し、対応できるのがお互いに支えあえる仕組みだと思う。そのため、班長さん、副班長さんの役割にその任を加え必要に応じ班会議や班長会議などももち、活動する。各家庭における困りごとは班長に相談し、その内容によっては区長、町会役員、民生委員へとつなぎ、住民相互の支えあいを活性化する。これが理想です。 	○	○			
				○		
					○	
				○		
			○			
		○	○			

4. 地域の生活環境支援		A	B	C	D	E
	<ul style="list-style-type: none"> 学校の通学で危険がないよう行き、帰りに道路や信号で見守りや声かけあいさつをしてくれる人たちに感謝するとともにずっとその体制は維持していただきたいです。 				○	
	<ul style="list-style-type: none"> 町内会での活動が基本となると思うが、福祉活動の必要性について町内会の理解と組織の強化が必要になってくる。定期的に住民座談会を開催し地域としての盛り上げを図ってはどうか。 	○	○			
	<ul style="list-style-type: none"> 地域で単独で生活している住民に何が困ってることはないか、心配なことはないかなど些細なことでも声かけしていくサービスがあるよと宣伝してほしい。 	○	○			
	<ul style="list-style-type: none"> 町会費を納めている人だけの「町会」に驚きました。脱会した時点で携わらないことに驚きました。町会の会費の会に驚きました。当然との返答が多々ですので、当然なのでしょう。婦人部なるものが上下関係を作りながらサロンのために食事の用意、同じようなゲームを繰り返し用意しています。研修会でも各サロンでの同じことの紹介です。参考になるのでしょうか。もっと方法があると思うのですが、我が町会に限ったことでしょうか。どこもこんなものだよで流されます。小地域に任せるのは理解できますが、意見を交わすことで様々な知恵も出るのでは？町会の目が届かないところは特に民協が寄り添わなければと改めて思います。 	○	○	○		
	<ul style="list-style-type: none"> 老人家庭を助ける組織、町会ごとのボランティア組織を作ることが必要だと考える（70歳以上の家庭）。一家庭ごとの担当者を決め助ける。 			○		
	<ul style="list-style-type: none"> 高齢社会に向かい、住み慣れた地で少しでも長く生活できるといいな～。そんな地域福祉であって欲しいです。 				○	
	<ul style="list-style-type: none"> 町内会の役員は民生児童委員に頼りすぎている。2か月に1度、民生委員と会談してコミュニケーションを図るべきであると思う。（ゴミ出し問題、隣同士、トラブルなど） 			○		
	<ul style="list-style-type: none"> 町内会への参加の呼びかけが少ないように思えます。町内会の結びつきから情報も入りやすくなるので、若い人たちを中心とした町内会づくりをしたら良いのでは？ 		○	○		
	<ul style="list-style-type: none"> 以前は近くに毎日の食事の用意が出来る店がありましたが、今は大型のスーパーに行かなければなりません。これから15年、20年後やはり不安です。買い物や家事仕事は毎日続けられる運動の様に思っています。福祉のサービスを受けなくてもいつまでも続けていくことが、自分の健康な生活をする大切なことと思っています。子育てをした、35年前豆腐屋さんが車で来て良く買いました。函館牛乳の移動販売車も来て牛乳の他食品も買え本当に助かりました。今現在は黒田パンの販売車が週1で来てくれ美味しい出来立ての食パンが食べられ嬉しいです。家の前まで来なくても歩いていけるところで買い物が出来ればと思います。あと、近くにあるコンビニ、ツルハ、ホームックなど近隣で採れた生鮮食品(魚、野菜など)を置くのは無理でしょうか？全国的に先駆けまたは、登別市民の生活サービスとして“してもらおう”事ばかり提供するのではなく、いつまでも最低限のことを出来る一番大切な事を考えてもらいたいです。(登別市の町づくり) 			○		
	<ul style="list-style-type: none"> もっと若い人が町内会に参加してくれたらと思います。老人が老人を見るのは大変です。 		○	○		

4. 地域の生活環境支援		A	B	C	D	E
	・ 町内会館を開放して月に1度なり都合の良いときに何人かで訪れて談笑して帰る等の場づくりがあってもいいのかな。		○			
	・ 町内会の役員の後継者がいないのが、大変心配しております。			○		
	・ 近所のコミュニケーションを密にしてほしい。		○			
	・ サービスや仕組みが出来ても、町内会の組織、活動が出来ていない町内会があります。町内会に頼らないで、個人で助け合っている所もあります。なかなか、市内みんなが恩恵を受けられるかわからない。町内会が弱体化しています。これをどうしたらいいのか。土台がゆらいでいるのに、建物（サービス）を支えることが出来ないと思う。		○	○		
	・ 町内でのサロンが立ち上がり、活動が始まっていますが、その場所まで出かけるまでがおっくうがり、また、身体の不自由な人は出かけられないことなど有、何かしらの方法があったらと思う。	○	○	○		
	・ 町内会の現状は、①役員の高齢化、②役員へのなり手不足、③町内会への未加入世帯の増加、④高齢会員の増加による、班長、区長などの末端組織活動のなり手不足、であり、今回の「きずなづくり台帳」も台帳は作ったものの、管理が困難であり、形がい化する恐れがあると思う。	○	○	○		
	・ 私の町内では、社協さんからの援助金いきいきサロン等やふれあい会食会とすずらんかい（老人会）との協力で、毎月1回程度、食事会、ゲーム、カラオケ、歌声、喫茶を行って、楽しい時間を過ごしていますが、自宅へのサービスの部分では、今のところ何も行っていません。また、民生委員として訪問しても、心を開いてくれず、他の方法で情報を伝達で来たり、自宅にいて、何か楽しめることが出来るように広報（町会としての）内容を充実することが出来たらと思います。	○	○	○		
	・ 今後増えると思われる、認知症の高齢者が出来る限り地域で暮らせるように、安心して生活できるように、住民の方々の理解とサポートがより重要になってくると思いますが、認知症について、住民の方々が学べる機会があると良いですね。	○	○	○		
	・ 有償での食事作り、掃除などをしてくれる団体への補助（札幌市で行っている）。			○		
	・ 町内会自体問題があるような気がする。例えば総会に委任状をとらないで総会開催、福祉委員1人、婦人部の活動三年位なし、H24の停電時回復後、プリント1枚回覧が回ってきたのみ、世帯数の割りに出席者が非常に少ない。何年も町内会に町会費を納めているが町会行事に何十年も出席したことがない。会長さんの名前すらわからない町内会員がかなり多くいる。町内会をやめたいお年寄りが多い。不公平さが出ている。			○	○	
	・ 情報の交換が少ない。民生委員と町内会を兼ねている人は共用しているので情報を交換する必要がないと思っているようであるが、サポートする人たちへの情報は必要である。			○		
	・ お酒が入ると人間よくしゃべる。お酒の場を設けお話を聞きたい。				○	
	・ 町内会役員は高齢者が多い。若い人たちの役員出番を希望し若返りを期待したい。			○		
	・ 高齢者が多いのに福祉部は二人しかおられない福祉に携わる人を増やして欲しい。			○		
	・ お話をする場を多く持ちたいです。		○			

4. 地域の生活環境支援		A	B	C	D	E
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護等、支援してほしい方が、町内会に何人いるのかわからない。自分も介護が必要になった時のことを考えると、どうしていいかわからなく不安である。 			○		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ ①私の町内会では65歳以上の高齢者が60%を占めており、役員も70歳以上の方が多いため、若い役員を入れるためには町会行事に参加してもらう為に話を進めています。 		○	○		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ ②行事に出席する方は同じメンバーで参加していない会員を参加してもらう為に役員が送迎しています。 		○	○		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ ③行事も高齢者が楽しめる内容を取り入れ、活動しています。 		○	○		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町会の高齢化が進み、老老介護(?)のような状況で行事を進めています。時々、町会も存続できるの?大丈夫?の心配な声も出ています。若い方は日中働いていますので…。今後の町会のあり方についての検討も必要な時期に入っています。(ひとり言です。) 		○	○		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民の皆さんの中には、より良い社会をつくるため、色々なお手伝いをしてあげたいと思っている方がいると思いますが、その窓口が分からず、実行にうつせない方もいらっしゃると思うのですが、その窓口があると大変うれしいです。困っている方の手助けがスムーズに出来る方法などが分かればうれしいです。汚い字で申し訳ありません。以上です。 				○	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもから高齢者までが集えるスペース(できればアールニスや図書館内など)を広げる。ここでは小さな拠点がいくつもあるが、それぞれ離れていて、車の運転が出来ないといけないので、難しい。もっと広くスペースを1か所に作り、無料でバスを運行させるのが良いと思う。また、次の項目をその拠点に作ってほしい。赤ちゃんを預かる場所、高齢者の居場所、高校生、中学生が勉強する場所、小学生が学校帰りに寄れる場所、一人暮らしの人が気軽に食事に寄れる場所、図書館、カフェ、お風呂、ボランティア手配事務所、銀行・郵便局窓口。 			○		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今現在は祖父母との同居が少なくなっている為、色々な生活の知恵や会話が失われているように思います。小さな子と老人のふれあいをもつ場がもっとあるといいと感じています。老人会などの方々が来所(保育所)されて、嬉しそうに子供達の姿を眺め、手をつなぐ場を見るたびに、もっとこのような時間を作ってあげられたらと痛感します。(保育所だけでは限界がありますので)心の交流があれば、「自分だけ良ければいい」という思いの人達が減っていくのではと思う毎日です。 			○		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 連合町内会単位で町内会役員と民生児童委員との定期的な意見交換会があればと思う。 		○	○		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町内会の役員の年齢が全国的のみならず登別市においても高齢化が進み、かつ役員のなり手が不足している。今後、町内会自体が成り立たなくなっていくことが予想されます。また実際に運営が出来なくなっている地域もあることから、地域を包括支援センター、社会福祉協議会等、協力しながら地域の福祉を推進することが必要。 	○	○	○		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分は建築の仕事に携わっていたので、住宅の改善などの相談にはのれると思う。 				○	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域(校区)ごとに相談窓口があったら良いと思います。あまりにも組織がありすぎて、どこに相談事を持って行ったら良いのかわかりません。 			○		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町内会全体で進めないと、福祉委員だけでは出来ない。たとえば、隣近所の協力、若い人の参加。 		○	○		

4. 地域の生活環境支援		A	B	C	D	E
	<ul style="list-style-type: none"> 昨年末にサロン活動の情報を得て、本格的には今年3月から活動を開始したため、サポーターとしてはまだまだ初心者です。幸い一緒に活動を始めた方の中に民生委員をされている方がおり、現在はその方を通して、いろいろな情報を学ばせてもらっています。ですので、現在はいろいろ模索中といったところでしょうか！今後、公の場での研修に参加し、自分のサポーターとしての方向性（現在のサロンでは何が不足か？なども含め）を定めたいと思っています。 				○	
	<ul style="list-style-type: none"> 町内会で、地震・津波などの避難について話したことがあったが、逃げる時に跨線橋を渡らなければならない、高齢者、身体の不自由な人を助けながら避難が難しい。なんとか、緊急時に簡単に線路を渡れるようにならないだろうか。 		○	○		
	<ul style="list-style-type: none"> 地域の人との交流（日頃から）を持っている人は、何らかの援助を受けられるが、他人との交流がなく、単身で暮らしている独居の人との関わりを定期的に訪問し、心が開けて必要な時に援助できる組織づくりが大切だと思う。防犯パトロールのように、独居老人への声かけパトロール、記録物腰、経過が福祉部員にもわかり、必要に応じて、隣人にも協力を得られるように、細かいマニュアルがあると良い。 			○		
	<ul style="list-style-type: none"> 実際にこのアンケートに答えたとして、何にしても一歩踏み出すことに。利用したい人、参加して手助けしたい人との信頼性が先になると思い、顔見知りになり、普段から会う回数を多くできる場所があればよい。 	○	○		○	
	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報守秘義務法則もあり、市・社協・町内会にて種々取組中であるので、入り込みやすくなってほしい。 			○		
	<ul style="list-style-type: none"> 地域ごとに買い物バスがあれば、足が悪い方や冬で行きにくい方が買い物に行きやすいのでは？ 			○		
	<ul style="list-style-type: none"> 老人世帯の増加に伴い、町内会に行政の連携を密にする体制を作る。 			○		
	<ul style="list-style-type: none"> してほしいことを申込み、有償サービスを受ける。そんなサービスがどこの地域にもあればよい。 			○		
	<ul style="list-style-type: none"> もっと身近な所に、行きやすい所に、そういう場所（相談）があるといい。私に分らないだけなのか、行動にうつせないだけなのかもしれないのですが。 			○		
	<ul style="list-style-type: none"> 困っている人が、自分がこんなことで困っているというのを、なかなか他人には言えないと思うし、また、逆に、こちらからどうなんですか？困っていませんか？というのも変！こういうことは、こういう所に相談に行ったら良いよと知らしめることが大事だと思う。 				○	
	<ul style="list-style-type: none"> 各種団体が情報を共有し連携を深める組織を推進していく。その中で独居高齢者の家族（地方在住）との情報伝達や面談のシステムづくりがほしい。 	○	○			
	<ul style="list-style-type: none"> 巡回バスを運行し、買物やサークルに出かけられたら喜んでもらえるのではないのでしょうか。 			○		
5. 行政に関すること		A	B	C	D	E
	<ul style="list-style-type: none"> まずは小学校教育、中学校教育から変えるべき。問題意識を持って行動できる人材をつくるべき。考えられる人が少なく、みんなに同調する人しかいないから何も変わらない。 				○	○
	<ul style="list-style-type: none"> 町内会の活性化が大きなカギになっていくと思う。これは行政と連携していくことで可能になって行くと思います。 	○	○			

5. 行政に関すること	A	B	C	D	E
<ul style="list-style-type: none"> 45歳～50歳世代の収入増が出来ないか、少子化対策として考える必要有り。 			○		
<ul style="list-style-type: none"> 室蘭市に比べると登別市は色々な面を出遅れている感じがする。チラシや広報、市のホームページなどを上手く活用できる策を考えた方がいいと思う。 			○		
<ul style="list-style-type: none"> 公用のためには個人情報の利用を考えてはどうか（もっと）。 				○	
<ul style="list-style-type: none"> 最近、個人情報に関する、色々な意見があるが、福祉、災害時の支援などについては、個人情報は必要ない。むしろ、町内会役員、近所の人々に情報を開示した方が、本人の為になると思うので、色々な個人情報を町内会役員、親しい人に開示するべきである。 		○		○	
<ul style="list-style-type: none"> 老年になると、どうしても出不精になる。車がない、足腰が弱くなる、一緒に行動する友が居なくなる、などなど…。そこで市に言いたい。①近くの温泉の活用を考えて欲しい。②観光客距離も市民を優先に考えて欲しい。③家にこもりがちな年寄りたちを好きな温泉へ連れ出す施策を考えて欲しい。④市の楽しい行事であれば参加者はあります！！ 				○	
<ul style="list-style-type: none"> 組織づくりに対するお金や方法などの援助をしてほしい。 	○				
<ul style="list-style-type: none"> 町会（町内会）組織の崩壊が危惧される時代となった。市（国）として、ボランティア活動を頼りにしなければならぬ状況となってきているが、金銭的なバックアップが絶対に必要と考える。町内会（組織）の大きさ、活動の度合いによって金額的な支援が必要だと思う。 	○		○		
<ul style="list-style-type: none"> ①行政は、多岐に渡って地域福祉の強化に取り組んでいることは理解できるので、計画重視ではなく、実践重視で活動を進めるべきと考える。一方、実践活動の発表会を多くして、表彰制度を強化する。 	○		○		
<ul style="list-style-type: none"> ②行政主導の施策は、現状の福祉団体（業務として実施）の他に、ボランティア活動として「連町～町会活動の組織」を強化して実施すべきと考える。その際、実施した町会への援助も強化していただきたい。 	○	○			
<ul style="list-style-type: none"> 町会の役員ですが、地域の住人の個人情報の一部しかないので、もっと家族構成や障がいの程度、介護が必要かなどの情報がほしい。そこで、行政からの個人情報を開示してほしい。それがなければ、なかなか地域の福祉を応援できないと思う。（行政が一番詳しい情報を持っているのだから） 	○		○		
<ul style="list-style-type: none"> 以前、テレビのニュースで、学校に自主避難したが、体育館の鍵が掛かっており、役所に電話しても繋がらず、そのような時はどうしたらよろしいのでしょうか。市としては、そのような時の為に、どのようなバックアップ体制を取っているのでしょうか。 			○		
<ul style="list-style-type: none"> 高齢者も障がい者も、地域で安心して暮らしていくなどの方策が必要と思う。具体的にこんなものがあればとか、簡単には書けないが、福祉のまちづくりは冠だけが先行して、中身があまり見えないように思う。訪問介護や入浴にしても、喜んでもらえるようなシステムに出来ないか、見守りについても、町内会や民生委員、あるいは研修を終えた資格者が訪問し、色々相談するようだが、現実にならなっているのだろうか。行政や社協、地域包括支援センターや地域の町内会と連携し、推進すべきと思う。地域としっかりと共通認識を持って、情報などやっているといるが、私はそうは思っていない。自分たちの地域は自分たちで、公・共助に頼りたくないが、自立しての生活は程遠いと思います。 			○		

5. 行政に関すること		A	B	C	D	E
	<ul style="list-style-type: none"> 防災にしる、福祉にしる、最近はあまりにも安易に「協働」とか「自助、共助、公助の優先性」などが言われる。「協働」とは、従来は、何かあれば役所に頼っていたことを協働の名のもとに「自立あるのみ」的考え方が先行している。「自助、共助、公助」の優先順についても、地域や現場の住民が、まずやれるべきことをやれ！公に頼るな！のスタンスが強過ぎる。もっと調和のとれた住民対応があるべきと感じることが多い。 			○	○	
	<ul style="list-style-type: none"> 社協はもちろんだが、市全体として、ボランティアを含めた福祉活動の後継者育成に力を入れるべきと考える（各種活動に若年層の参加が少なすぎる）。強制はできないとしても、市として職員等に指導し、活動の輪を広げるようなことを行っているのでしょうか？ 	○		○		
	<ul style="list-style-type: none"> 観光と福祉のまち登別市の実現。福祉を重点においたまちづくり。1. 福祉活動に対する理解と参画。2. 福祉施設の充実（予算化しなくても出来る福祉施設）3. 市民が出来る福祉活動の実現。 	○		○		
	<ul style="list-style-type: none"> 自分がお世話になる側として考えると、有償が望ましい（今までの延長で無償の場合は何か物品でお礼することになるから）で私がやろうと考えたこともあったのは、チケット制（ポイント加算制の全国組織に入っていたこと有り）。チケットを買っておいて事柄ごとに値段をつけておいて（そのチケットは市内でだけ利用できるようにするのもいいかも）利用する。委任状が必要だったり、お金を払い込むために通帳やキャッシュカードを預けたりする場合は高額の設定をするなど…（介護保険を利用するまでの間にそういうことがあればご近所の恩情にすぎらずに地域でも頑張っ暮らしていけるのではないかと思う）町内会の取り組みも進んでいますが、それはそれとしてとても良いのですが、生活のサポートの声がかかるのを待つのではなく…。有償化、個別化の方向の模索が必要かと思えます。 		○			
	<ul style="list-style-type: none"> 社協での介護・育児に関する勉強会やプリントで知識を向上させていければ良いと思えます。 			○		
6. 社協に関すること		A	B	C	D	E
	<ul style="list-style-type: none"> 安心キットを活用した小地域ネットワーク事業を全市的に推進することに力を注ぐことが大切であると思えます。（この事業が地域福祉の原点だと思えます）ぜひ、94町内会に理解と協力を求めていくことが必要と思っています。 	○	○			
	<ul style="list-style-type: none"> 「きずな」の意味が理解されていない。町会の役員さんの中でも理解している人がいない。もっと体制づくりをしっかりとやらなければならないと思う。 			○		
	<ul style="list-style-type: none"> 現在各分野、団体、協議会等で福祉・地域・町づくりについて考えられ活動されていると思えますが、一定のつながりしかないように思えます。せっかく良いことをしていてももったいないと思うことがあります。地域のコーディネートを上手く出来ると地域福祉はもっと充実し、広がっていくと思えます。 			○		
	<ul style="list-style-type: none"> 相談窓口が明確になれば、一般市民の方も相談しやすく、専門機関との連携も図りやすくなると思えます。もっと包括支援センターと社協との連携が大切だと感じております。 			○		

6. 社協に関すること	A	B	C	D	E
<ul style="list-style-type: none"> 行政、福祉サービスの団体、市民の連携をもっと作ってほしいです。その為にも、町内会、地域等のコミュニケーションが重要だと思います。なかなか、市民の方々は、自ら外に出て活動に参加したり、触れ合うことが難しいので、行政や福祉サービス団体の方に、積極的に場を作っていただけると助かります。また、町内会、民生委員、サロンなどを上手に活用していければ、より地域の活性化への繋がるのではないかと思います。今後は、若者のサロンサポーターの養成を望みます。 			○		
<ul style="list-style-type: none"> 今までのいきいきサロンも、地域に多くの効果上げてきたと思うが、今後は徐々に生活不活発病の予防・回復・向上に力点をシフトしてはいかがでしょうか。このことが本人の幸せと医療費や介護費の抑制につながると思う。このような活動を積極的に取り入れ、効果が認められる団体を優遇。 	○	○		○	
<ul style="list-style-type: none"> 町内会長さん及び役員の方の福祉に関する意識を高めていただけたら良いかと考えます。それに関しては、各町内会の役員さんの福祉に関する研修。今必要な登別市・社協の現状などの説明を行ってはいかがかと考えます。 	○	○			
<ul style="list-style-type: none"> 24時間対応できる体制づくりと、窓口の設置をお願いします。地域のコミュニケーションしかとれていないので何かをするのにも、協力がなかったり時間がかかる。 			○		
<ul style="list-style-type: none"> 多くの福祉実践者の確保 	○	○			
<ul style="list-style-type: none"> 町内会全体で地域福祉を進めるのだから、福祉部員だけの取り組みでは負担が大きくなるばかりと思われれます。“協同”“協働”を一般の人達にも理解し、協力してもらう働きかけを考えていただきたい。 				○	
<ul style="list-style-type: none"> 何でも相談のしやすい窓口があるべきで、またどこに相談したらよいかのわかりやすくすべきだと思う。実践して5年目だとのことだが、今まで社協の方が何をしていたのか全く知らなかった。宣伝の仕方を工夫した方が良いと思う。 			○		
<ul style="list-style-type: none"> 学区制、生徒の福祉活動への参加などによる、福祉教育の啓発 			○		
<ul style="list-style-type: none"> 地域の福祉は、地域からの相談を受け、必要な事項について上部機関・団体と相談することが大事であり、上からの指導が良いのではないか。地域の自主的な活動の上に立った「きずな」であるべきである。 			○		
<ul style="list-style-type: none"> 社会問題がさまざま多様化してきているなか、消費者被害を未然に防ぐためにも、広い年齢層に啓発活動をしていく必要があると思います。子どもから高齢者まで幅広い市民や各団体の方々とネットワークをつくっておられる社会福祉協議会さんとともに、これからも連携して活動していきたいと思っております。よろしく願いいたします。 	○				
<ul style="list-style-type: none"> 主となる団体への理解・育成とともに、地域の就労している若い世代への参加しやすい方法等充実し、行政のみの枠にはまった活動にならないような働きかけが必要だと感じます。 	○		○		
<ul style="list-style-type: none"> 現在福祉活動は、各町内会単位で進めておりますが、社協主催の講習会時、一部の町内会の情報を目にすることが出来ますが、「井の中の蛙大海を知らず」のことわざ通り、近隣の町内会の情報を把握していません。地域福祉向上のためにも近隣の町内会と交流できるような場を多く設定してもらえればと思います。 	○	○	○		

6. 社協に関すること	A	B	C	D	E
<ul style="list-style-type: none"> 住民が住民を支えるサービスや仕組みなど、ルールを作れば安心して地域に住むことが出来るなどと市や社協が考えているとしたら取り組みとしては違うように思います。年齢を重ねるとともに知人や連れ合いを失い、孤独な生活を余儀なくする、高齢者や単身者が、親兄弟、身内の様に、隣近所が自然にお付き合いできることが大切で、地域全体を一つの家族と考えて、あたたか手柔軟な協働社会を創ることが肝心なことと考えますが間違いでしょうか。一体「きずな」はどこへ行ったのでしょうか。 			○		
<ul style="list-style-type: none"> 定年退職し、今後はボランティア活動したいと思いましたが、誰に聞いたら良いかわからなかった。独居の方の個々の問題点、悩みを聞き、サービスにつなげられるために、地域の強化と情報を広く知らせてほしい。 			○		
<ul style="list-style-type: none"> 地域の支え合う活動は色々な意味で大事なことです。これからますます高齢化となります。隣近所の助け合いが必要です。町内会、地域の活動支援はもちろんのこと「きずな推進」の取り組みに期待しています。「きずな支援」の啓蒙で理解活動と活動のリーダー育成強化し、地域の助け合い、支え合い活動をもりあげてほしい。 	○	○			
<ul style="list-style-type: none"> 地域及び町内会間のネットワークが大事なことと感じています。社協、市の福祉グループ、町内会とのつながりが重要と思う。社協の位置づけが分からない。単一町内会の活動を側面から支援するとの立場と認識していたが、本アンケート設問[2]地域の支え合い活動でも上から目線の問いかけで問題だと感じる。社協は具体的な町内会との関わりが感じられない（報告せよとの事柄が多すぎる）。 	○	○		○	
<ul style="list-style-type: none"> 基本的には町内会活動にて実施している。役員不足にて、各町内会のレベル差があり、情報含めて、共有化できるようにしてほしい。ボランティア活動にも無理があり、最終的には、役所、社協がどれだけ協力できるかです。全て町内会に丸投げしてもだめです。年1回は社協メンバーとの話し合うことが必要。小集団ネットワーク的活動が必要では？ 	○	○	○		
<ul style="list-style-type: none"> 少子高齢化のスピードが速いだけに、高齢者や障がい者が高齢者を支え合う状況が益々強まっている。若い人、とりわけ現役世代の方々がボランティア活動に参加することが、企業や学校などでしっかり評価される社会環境づくりに社協としても尽力してほしい。某企業労使では、1年に1回、町内会役員や福祉団体役員及び、ボランティア活動に参加している方々を慰労していると伺っている。こうしたことが拡がることを期待している。 			○		
<ul style="list-style-type: none"> 今後民間で出来る事は民間にまかせ社協は社協としての役割を担うべきと思う 	○		○		
<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動は大事だが、少子高齢化を迎えての中で、介護ヘルパー役である地域の住民が、元気で健康であるがゆえに、支え合い、助け合いが出来るので、健康面を重視した地域での取り組みを検討してほしい。子どもも大人も、地域ではすべてがヘルパーでなければ、これからの社会情勢が進んで行く中で、長期的に子供から（中学生以上）指導教育をして、地域一体化が大事であるので、今から長期計画を取り入れてほしい。 	○	○	○		

6. 社協に関すること		A	B	C	D	E
	<ul style="list-style-type: none"> 今後、空家、空き地が増加することが予想され、空き地を無償、または、格安で、貸し出しの窓口（社協が）となってはどうでしょう。きずな活動が始まって、10年（？）経過しているとおもいますが、具体的に実施されたものが見えない（広報不足か？私どもの関心度の低さか？）客観的な検証が必要ではないかと思えます。 			○		
	<ul style="list-style-type: none"> 町内会に任せ、指導を社会福祉協議会及びきずな推進委員にしてもらいながら進める。 	○	○			
	<ul style="list-style-type: none"> 社協と私たち（一般の人々）の間には、かなりの隔りがあると思います。窓口は、どういう方々なのか、何をされているのか、理解していません。身近に難じられません。申し訳ありません。 			○		
7. ボランティアに関すること		A	B	C	D	E
	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアサービスを必要とする人たちが、ボランティア活動をしている人をわからない方が多々見受けられます。ボランティア活動をしている人のアピールが必要だと思う。 			○		
	<ul style="list-style-type: none"> これからの時代、男性は65歳まで働き、能力のあると思われる人は、70歳ぐらいまで働く時代が来ており、福祉、ボランティアをしようとする時、自分が福祉を受ける年代に来ようとしています。全国的に町会、福祉も、今までの概念では（精神論）進めなくなって来ています。一部に負担がかかりすぎ（心理的にも）働きながらも、金銭面、精神面、ボランティアの量など、相細かく策定して進めてほしい。 				○	
	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動に参加したい意欲はあるが、自身も高齢者なので、なかなか積極的な参加まで行きません。誰もがもっと気軽に参加できる情報または提供活動を推進してください。 				○	
	<ul style="list-style-type: none"> 若い方のボランティア意識を図る方法は何か。出来ない、しない、したくない、三無のいましめ、益々そんな世代になって行くカンフルが急速に必要。 				○	
	<ul style="list-style-type: none"> 福祉サービスを利用したい人は増え続け、それを支える人は少ないのが現実です。不況、不景気も重なって、無償のボランティアをする方も減っています。地域福祉を単なるボランティアではなく、ボランティア以上専門職未満で考えていく時期ではないかと思えます。40代～60代の中でフルタイムで働くことはできないけれど、少しは働きたいという方が、活躍できる仕組みが整えば良いと思います。 			○	○	
	<ul style="list-style-type: none"> 何かボランティアをしたいと常々思っているのですが、どうしたら良いかわりません 				○	
	<ul style="list-style-type: none"> “ボランティア活動に参加したいと思っても仕事をしているため、現実的には難しいです。ボランティア活動に参加した日は仕事をした日とみなしてほしいと思います。そうするともっと活発に参加できると思います。有職者は定年後の参加となり、結局は年配者が多いような気がします。若い人でも参加できるようにしてほしいです。” 				○	
	<ul style="list-style-type: none"> 介護や福祉サービスを受ける事は、有料であると認識する事（無料でのサービスは有り得ない）ボランティア活動に対してポイント制を導入してその人が介護などのサービスを受ける場合にそのポイントが使われる様にする制度（お金に代える室蘭市方式には反対）そのポイントを使わなかったらそれはハッピーと感謝すればよい。 				○	

7. ボランティアに関すること		A	B	C	D	E
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行為で行った支援ボランティアが、後日になってから嫌な思いをすることがある場合を考えたならば、実費負担と割り切った方が良いと思う。 				○	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今社協に入り、傾聴ボランティアの講習を受けたが、実感できず、肢体不自由児や自閉症児のサポートを数回行い、ノルディックウォーキングに自分の健康のため参加出来る時に参加。更正女子会にも参加しているが、週3回でパートもして、91歳と85歳の親があり、ボランティアしてもらわないとだめかな…なんて。今後も私の心をくすぐるボランティアを知らせてください。 				○	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティアに参加して下さる方は、熱心で気配りできる方ばかりで、本当に助けられています。しかし、ボランティアさんにばかり頼るのはどうかと…。 				○	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子供を集結させて遊びや体験を通して子どもの社会性や成長をのばしてくれるようなボランティア（ゲームばかりだったり、住んでいる地域には公園や体験できるような場が少ない、気軽に安心していけるような場も少ない。） 				○	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティア活動をあまり大上段にかまえない方が良いのではと思います。形にとらわれすぎず、もっとシンプルに考えていった方が参加しやすいのではないのでしょうか。 				○	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティアとしてお手伝いしているなか、相手の方に必要以上に要求され、依存され、お子さん方に話しても、まともにとられなく、人との関わり方に不安感があり、活動を控えています。 				○	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自身がボランティアしていただいても良い歳だと思いますので、若い方にも多く参加されてほしいと思います。 				○	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私は個人ボランティアとして関わっていますが、社協さんは個人ボランティアが充実しており、とても助かっています。これからも私たちにたくさんボランティア先を紹介して下さい！！ 				○	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティアと言っても、色々な形があり、私は実際にボランティアを受けられたい人に、何か手を貸してあげると言うことではなく、私たちの作ったもので、感動したり、使ってもらったりで、微量なりとも役に立っていれば、それも自分にあったボランティアの形だと思っています。 				○	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティアに協力していただく心のある人が少ない。あくまでも心のある人が一人でも参加していただきたいと思います。一人ひとりのきずなが必要だと思います。 				○	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年齢を問わず参加できる（元気な中は）ボランティアがあったら参加してみたい。 				○	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティア活動 				○	
8. その他		A	B	C	D	E
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本当に困っている人、悩みを抱えている人々をどう発見していくか、非常に難しいと思います。手が差し伸べられずに悲惨な結末に終わらないようにするにはと、私自身も悩んでいます。また、福祉と名がつけば、高齢者、障害者、子ども、疾患を持つ人と、多様な人々との対応もあると思います。それと自分の住んでいる所に、どんな人が住んでいるか、個人情報ではあるのですが、町内会、民生委員等に役所からの情報も大変必要ではないかと思えます。個人情報と、情報公開の問題も大いに議論して、結果を出してもらいたいと思います。 				○	

8. その他	A	B	C	D	E
<ul style="list-style-type: none"> 理想と現実とのギャップを感じている。行動は難しい。 				○	
<ul style="list-style-type: none"> 常々考えていること（私見）を述べさせていただきます。①設備も組織も人材も各町内会を元請的に活用したら良いと思います。 				○	
<ul style="list-style-type: none"> 有志が集まって活動しても中々発展性に乏しい。 				○	
<ul style="list-style-type: none"> 福祉タクシーの登録者、各登録会社の資料を、又タクシー代の基準などの資料、福祉タクシーが高額と聞きました。なんとかならないでしょうか。タクシー用のメーターがあるとも聞きますが、不透明です。弱いものを食いものにしていく感があるタクシーもあるのではないかと。又、もぐりではなくて正式なものであるというステッカーなど、ないのでしょうか。 			○		
<ul style="list-style-type: none"> 自分が高齢化してきていて、サービスしてもらう側として考えるようになってきている。すると、無償では頼みにくい（今までの生活の延長で、結局、物品などの何か別な形でお礼すると思う）。有償（高額ではなく）のシステムの確立が必要だと考える。思いつきとしては、有償チケット制（他地域でポイント制があり、それも良いと考えるが…）10枚つづりなどのチケットを購入しておいて、簡易な手伝いは1枚、銀行振込などの現金を扱う場合は5枚など、内容に応じて渡す。 			○		
<ul style="list-style-type: none"> 私は高齢であるので出来る限り世話にならないように努力をし、その上で多少なりともお手伝いできるようになりたいと思っている。 				○	
<ul style="list-style-type: none"> 私も日が浅いのでこれからは一生懸命勉強します。 				○	
<ul style="list-style-type: none"> 福祉アンケート調査を頼まれ目を通して行きましたら1P～2P目にいき、質問5.6に関してボランティアガイドと個人ボランティアは2ヶ所で行っていますが、私自身はそれが福祉活動と思っていないため、特に3P～7Pに関しては福祉実践者でないため、お答えは出来ないのです。 				○	
<ul style="list-style-type: none"> お付き合いは、気を遣います。むずかしいですね。やりすぎ、手伝いすぎは、程ほどに気を遣います。 				○	
<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の壁。個人情報は絶対に必要であり守るべきであるが高齢化に伴い、どうにも支援に必要な情報は該当者に了解を求めて出すべきではないか。 				○	
<ul style="list-style-type: none"> 地域福祉は絶対的ボランティアで！！ 				○	
<ul style="list-style-type: none"> まだ働いていて車も運転しているので、日常の生活に不便を感じていないのですが、あと数年でリタイアした時、ここで生活して行く上で、年を取って行って、運転できなくなった時を考えると、不安を生じます。限界集落と思われる上登別町ですが、空気がきれいで、星がきれいな、この町が大好きです。ここにいつまでも住みたいと思っておりますが、冬には登別で一番雪が積もり、雨も多いところで済むためには、地域の人々の協力なしでは住めません。いつもきれいに除雪してある道路や、何かあるとすぐ手助けしてくれる近所の人達には感謝しています。私も退職したら、車のない高齢者の人達の病院への送迎や、買物のお手伝いをしたいと思っています。ここでいつまでも住み続ける為に、市の行政に期待しています。 			○		
<ul style="list-style-type: none"> 今はあまり考えがない。そのうちに必要になるかも。 				○	

8. その他	A	B	C	D	E
<ul style="list-style-type: none"> 今回、入院生活を経験しました。今は、主人やお友達がお元気なので、病院に顔出していただきましたが、今後、年を重ねて行くと周りに友達も兄弟もいなくなる可能性が大です。子どもたちも遠くへ行っているの、迷惑かけると思うと知らせも出来ず、自分の老後、病人になった時が心配です。地元に通う場所がないと、子どもがいても地元で生活する、そうかといって、子どもたちの生活もあるでしょうから、親の心配ばかりも出来ない現実。他人様にお世話にならなくてはと想い、ささやかなボランティアをしましたが、仲間は同じに年を重ねるのですよね！！ 				○	
<ul style="list-style-type: none"> 現時点では限りがあり、独居の見守り程度です。元看護職を活かして、地域の手助けになればと思っています。個人的にはあまり生活情報も得られていないので、付近に気軽に立ち寄れる拠点（たとえば婦人センターを利用するとか）があればいいと思います。私も年齢的に相手の立場を考えると、動けるうちは積極的に参加したいと思います。 			○		
<ul style="list-style-type: none"> 質問7の買い物支援から下ですが、“地域の支え合い活動”からはかけはなれすぎではないでしょうか！？確かに自身も家族があった上で困っているところもありますが、“地域の支え合い活動”の中に組み込む問題点としては筋が違ふ気がします。質問11に関しても同じ様な感情になりました、このような問題を地域で解決できるようになれば、意見が合わない身内から距離を置く、自己中心的な考えを持つ人が増え、生活保護者を増やす要因にもなりかねないと強く思いました。 				○	
<ul style="list-style-type: none"> まず、自身の健康について、もう一度日常生活を振り返り、より良いサービスを提供できるように努力する。 				○	
<ul style="list-style-type: none"> 日本の福祉についてはヨーロッパと比べると20年以上遅れているのでは…。年金問題（金額）と生活保護を受けている金額で問題がある様に厚生年金額と国民年金額の差が大である。こんな事すら解消できなければ日本の今後の福祉なんて語れない。スキー教師をしているが基本はボランティアである。しかし指導料として1日指導に¥4,500いただける。生活費にはならないが、指導員は基本ボランティアの精神でやっている。金額の大小ではなく、無償にどれだけの方が理解できるか？（お金だけの問題ではない！！）先進国日本の福祉は現時点最低レベル。（発想のみ）ただ、私は日本の福祉は今じゃまったばかりと思っている。 				○	
<ul style="list-style-type: none"> どのようにして地域福祉に携わっていいのかわからない人が多くいると思う。自分の性格にあった『助け合い』があると思うが、どれに該当するかわからない人の為に、このようなタイプの人はこのような形の『助け合い』に合っているなどわかれば興味関心がわくのではないかと思います。 				○	

8. その他	A	B	C	D	E
<ul style="list-style-type: none"> 私、介護の仕事を20年くらい勤めてきました。市内の病院、また、神奈川の方に在宅介護24H勤務で平成9年に資格をとり、泊まり込みで1人暮らし、寝たきりの介護に携わってきたのですが、今はやめて自宅にいます。もう少し働けるような気もしますが、町内の人達に声かけ他、1人暮らしの人は特に気にかけています。何か私にまだ町内で出来る事があれば良いかなと思っていますが、いまわヘルパーさん達が良くしてくれているようなので、私たち町内の役員は入らないようにしています。ただ、団地なので、どこの誰がデイサービスにいつ行っているとか、どこのヘルパーさんが入っているとかの連絡が欲しいとは思いません。 			○	○	
<ul style="list-style-type: none"> 特にこれといったアイディアはないが、支援の押し売りは避けたい。支援が必要だと感じて、当の本人が支援を受けることを避けるケースがあり、声かけすら受けてもらえない場合の対応が難しい。現在は見守り活動の中で得た情報を関係機関との通報を中心に活動を進めている。しかし、そのことがお節介と受け止められるケースもあり、見守り活動の意欲をそぐケースもある。地域と社協の結びつきは必要不可欠ではあるが、その関係の現実、相互理解の域をこえていないのではないか。その解決には、根気よく、継続する以外の方法は考え付かない。 				○	
<ul style="list-style-type: none"> ①ボランティアを行なおうとする側と、される側との間にかなり温度差があって、玄関から一歩中に入っていけない。 				○	
<ul style="list-style-type: none"> ②事実、町会の福祉活動の中で、我々が入っていけるのは「玄関まで」と強く言われています。 				○	
<ul style="list-style-type: none"> ③これは「心の問題」であり、受け入れ側に「よろしくお願いします」といった心があるかないかで大差が生じてきます。 				○	
<ul style="list-style-type: none"> ④この辺りに町会活動の限界が見えてきます。 				○	
<ul style="list-style-type: none"> ⑤玄関までは町内会、その先は専門機関に任せることとなります。 				○	
<ul style="list-style-type: none"> ⑥したがってこのラインを混同しないようにすることが肝要であると認識しています。 				○	
<ul style="list-style-type: none"> ⑦近年「地域福祉」という名のもと、質・量共増大しています。他方、町内会活動は元気な方、参加できる人を中心とした活動が主体です。 				○	
<ul style="list-style-type: none"> 人間は好きなものを見たり、やっている時が一番幸せ。生きている喜びを実感できる。でも、その好みは千差万別。これは当たり前。嫌なことまで押し付けてはいけない。施設や用具にも金がかかる。これが一番の課題であろう。※他人の世話や手助けなどはまっぴら！でも50代以上の人は、もうすぐ自分もそうしてもらわねばいけない人間になる。行政や政治家がいつもペコペコ。ご無理ごもつともではだめなのだ。 				○	
<ul style="list-style-type: none"> 現在、包括支援センターがあるので、このままでいいと思います。 				○	
<ul style="list-style-type: none"> 地域の支え合いが求められていますが、両方とも高齢化の時代です。若い方を取り込んでの活動が必要かと思いません。地区役員だけでは限度があります。NPO事業を立ち上げ、専門的なサービス事業を提供する（校区ブロック単位で）ことが望ましく、その一端をお手伝いすることは可能かと思えます。 			○		

8. その他	A	B	C	D	E
<ul style="list-style-type: none"> 日頃から挨拶やちょっとしたコミュニケーションを取っていると、周囲の方はいろいろと気にかけてくれます。そしてわからないことや困ったことがあると、情報提供してくれます。コミュニケーションのとれない方は、わかりやすい、親切的な、行政の窓口が必要だと思います。（町会ではなく）町会に任せる福祉は、時間もお金も無駄の様な気がします。回覧板や広報などは、じっくり見る人はいないですし、字も小さいと見づらいので、福祉が必要と思われる過程には、個別にサービスの内容の書かれたものを郵送することが一番だと思います。 				○	
<ul style="list-style-type: none"> 自分自身は大変良いことだと思っていることでも、各個人個人に理解を求めそれを実行するという事は大変難しいことだと常に思っています。どうすれば良い方向に向かっているかが大変なことですね。何をするにも、相手とさりげない友人関係になっていく気持ちで活動していますが、皆さんはどうなのでしょうね。 				○	
<ul style="list-style-type: none"> 何事にも支援する側、受ける側の信頼関係を築かなければならない。その為、常に声かけ、話しかけなければと思いますが。 				○	
<ul style="list-style-type: none"> 国の制度は完璧なものはありません。よって、良い面だけが表面化しており、何が良くて、何が悪いのかははっきりしていない。この部分だけでもわかる方法で知っておく必要があると思う。 				○	
<ul style="list-style-type: none"> 諸活動で感じること。してくれてあたりまえ、自分からは口も出さず、手も出さずの会員が多い。そしてしてくれないと文句をいうし、気に入らないと文句を言う。こんな風潮を是非改めたい。 				○	
<ul style="list-style-type: none"> 今のところは町内会活動ですので、特に問題として挙げられるものにはありませんが、2足のワラジ状況の中では、積極的に取り組める状態にはありません。何かあれば会長と相談し進めていきたいと思っています。徐々に変わっていきたいと考えています。 				○	
<ul style="list-style-type: none"> 北欧諸国のサービスはどのようになっているのでしょうか？（参考にされたいと思います。）日本ではなく、海外からアイデアをもらったらいのかと思っています。日本も昔のような社会ではなくなり、「個」を大切に作る時代になり、昔のようなとかの思いは通じなくなりました。新しい時代になり、頭を切り替え、同じような価値観を持っている人々が集まる時代になると思います。国、市におまかせするのではなく、若い時から自分で考えて行動する時代がきているのですね。 				○	
<ul style="list-style-type: none"> 地域においても高齢化が進んでいます。町内会関係においても、中心は高齢者と言われる人たちです。何にでもあてはまると思いませんか？40代、50代、せめて、60代前半くらいまでの人達がより積極的にかかわっていけるような体制づくりとかが必要だと思われます。 				○	
<ul style="list-style-type: none"> 独居老人の訪問をしていただき、包括支援センターの皆さんに助けられています。社協、ゆのかの皆様との連絡体制が充実してきて、個人の問題も相談でき、ありがたいと思います。 				○	
<ul style="list-style-type: none"> 現状で精いっぱい。後継者もいなく、困り果てている。本来なら、すべての業務から解放されたい。 			○	○	
<ul style="list-style-type: none"> ふれあいフェスティバルなど、会場へ来て参加されていない方にその日の様子をビデオなどで知っていただきたいと思っています。 	○		○		

8. その他	A	B	C	D	E
<ul style="list-style-type: none"> ・ 思うことばかりで、なかなか参加しようとして実際に行動にうつせない。見ているだけではダメなのはわかっている自分が悲しい。簡単に、というと失礼なのはわかっているが、参加しやすい、何かがあると良いと思う。 				○	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域福祉に参加するとポイントなどがつくようにし、楽しめるようにするなど。 				○	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域では福祉に関しては、全くありません。どうなっているのかさっぱりわかりません。参加したくても計画も何もありません。地域では協力したくてもできません。大変淋しいものです。これで良いのでしょうか？独居老人の訪問とかふれあい食事会など他では聞きますが、私共のところでは何もありません。福祉って何なのでしょう。この頃大変疑問に思っています。このような地域もあることを知って下さい。 				○	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域のかかりつけ医との講演会、座談会があれば、より地域特性に応じた、地域福祉の充実に繋がると考えます。 	○	○		○	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 意見やアイデアではないのですが、今の私のことを書きます。私は68歳女性です。私は月2回アルバイトとしてチラシの配布をしております。私の地域です。配布は特別支援しているというわけではありませんが、近所に足の悪い男性がいるのですが、週に3回デイサービス、週1回在宅支援と、月1～2回訪問看護も受けているので、私のする支援はゴミ出しと、2か月に1回の町内の廃品回収に出す新聞チラシ、段ボール、あと冬は玄関前の雪投げ、草むしりは腰が悪いのでできません。そしてチラシ配布のときは、顔を見かけたら、必ず名前を呼んで挨拶しています。私は身体の不自由な方や困っている方が目の前にいたらほおっておけない性格なので、今に至っております。また、子どものときからの知り合いに合ったら、おじいさん、おばあさんでも挨拶はかかしませんでした。親の教えですね。 				○	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康なうちに支えたい内容は多い。各地区内に有償でも、協力者がいれば良いと思うが、例えば、雪かきは近所だと手伝っても無償。車両仕様の各種外出支援も、特定されると（相手が）万一の事故対応、日分の不都合時の代替者確保など、実行段階で二の足を踏む（同乗者保障など）。当町内会、福祉部女性4名は無免許者。定期的に来ることは、話し相手、相談相手、声かけ程度。緊急時の支援体制については、役員会で再検討し（民生委員含む）、情報交換体制づくりを検討中。 				○	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 60代～70代の年金暮らしで、元気な方がいっぱいいるので、その方々にもっと地域の活動に参加してもらえるようにした方が良いと思う。 				○	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 生きがいの創出。空地を利用した家庭菜園づくり。 				○	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 市や地域がバスなどで送り迎えをして、食事など楽しく過ごせるサービスがあると参加する人がたくさんいるのではないのでしょうか。 				○	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 国が在宅医療の普及に伴い（在宅療養支援診療所）が当市にも出来、最期まで患者本人が自宅で過ごせるインフラが整備されたことを希望する私は、より以上整備され、安心して生きられるように、そして、希望の持てる素晴らしい形にしてほしいと願っております。今日から明日から何かを変えよう。皆様の日々のご苦勞に感謝いたします。 				○	

**【資料4】 福祉事業所向けアンケート調査 質問6
地域福祉を進めていくうえでの意見やアイディア**

＜凡例＞

- A. 市あるいは社協で実施済 B. 既に実施済(町内会・民児協・NPOなど)
C. 今後の課題として要検討 D. 個人の問題として整理
E. 現状では対応が困難

1. 高齢者支援		A	B	C	D	E
	<ul style="list-style-type: none"> 2025年を目途に地域包括ケアシステムの現実が求められており、医療と介護の連携等がより充実していく中で多様化するニーズに対応する為にはインフォーマルな社会資源も大変重要です。さらなる生活支援サービス等の円滑な導入のため今後は情報交換の場をもってサービス導入がスムーズに実施できるように行ければと考えています。 			○		
	<ul style="list-style-type: none"> ご自宅で介護している介護者(ご家族等)への介護方法の指導(ケガをさせたり、介護者の負担軽減) 			○		
	<ul style="list-style-type: none"> 同業者や他施設・企業関係者間の情報交換会コミュニケーションの場、機会づくりを行うことで横のつながり・結びつきを強めていけたらと思います。地域での活動、研修会などに積極的に参加し個人として施設としてのレベルアップを図っていきたくと考えています。施設として出切る限りの協力はさせていただきたく所存です。 		○		○	
	<ul style="list-style-type: none"> 地域である程度自立した生活が行えるようになった精神障害者の課題として余暇活動の充実の必要性を感じることがある。コミュニケーションが苦手であったり、それぞれニーズが違ったりするので難しい部分も多いが、余暇活動を広げる支援の取り組みも考えてほしい。 			○		
	<ul style="list-style-type: none"> 利用者本人の障がい年金申請のためドクターとの面接、打ち合わせを実施している。 詳細については、利用者家族(父親、母親)の高齢化にともない、障がい年金申請手続きなどの時、ドクターとの打ち合わせなどに付き添いをし、生活状況の説明などのサービス。 				○	
	<ul style="list-style-type: none"> 地域福祉活動に対する協力体制 全市民が福祉活動に感心をもって協力する体制づくりが必要 今後の活動のあり方を研修して欲しい。 	○		○		
	<ul style="list-style-type: none"> 雪かき対策について。簡便な動力のついた雪押し機具を大至急業者さんと共同で開発していただきたいと思えます。 中高年者にとってはまったなしの状況です。高圧洗浄機などのしくみを利用して…等。 雪かき対策こそ最重点の課題と思えます。せめて家の周りくらいは除雪は自分でしたいのです。 					○



これからの登別のきずなを 考える福祉アンケート調査

～ご協力をお願い～

登別市社会福祉協議会（社協）は、市民と共に福祉のまちづくりを進めている民間の福祉団体です。平成23年度からスタートした第2期登別市地域福祉実践計画「きずな」は今年で最終年度の5か年目を迎えています。

今年度新たに次期5か年の第3期きずな計画（平成28年度～32年度）を策定するために、社協ではきずな推進委員会等を設置して取り組んでいるところです。

そこで、今回も本アンケート調査や今後地域で開催される住民座談会等を通して、市民の皆さんの想いを束ね、計画に反映させたいと考えています。

これからの地域の支え合い活動は、各種制度改正等による地域の支え合い活動への影響も大きいことが懸念されるため、従来の自治・相互扶助活動から一歩踏み出し、地域の暮らしを守るため、地域で暮らす人々が中心となって生活を支える仕組みづくりが求められます。

そこで、本アンケート調査は、具体的な地域の支え合いの現状の把握と今後の支援内容を検討するため、福祉実践者を対象に実施することとなりました。

お答えいただいた内容は、すべて統計的に処理をいたしますので、本調査内容がこの目的以外に使用されることは一切ありません。

本調査の趣旨をご理解いただき、第3期きずな計画策定にご協力をお願いします。

平成27年8月

社会福祉法人 登別市社会福祉協議会 会長 佐藤 逸夫
きずな推進委員会 委員長 山田 正幸

お問合せ先：社会福祉法人 登別市社会福祉協議会・きずな推進委員会 事務局
〒059-0016

登別市片倉町6丁目9-1 登別市総合福祉センター（しんた21）内
電話 0143-88-0860 FAX 0143-88-4546

ご記入方法について

- ① 回答は無記名です。
- ② 本アンケートは、現在取り組んでいる“地域の支え合い活動”や、今後必要となる“地域の支え合い活動”について記載いただきます。
- ③ 各設問で該当する数字や表の欄内に直接○をつけてください。
- ④ お答えいただきましたアンケートは、お手数ですが8月31日(月)までに、同封の返信用封筒に切手を貼らずに封をしてそのまま返送(投函)ください。
- ⑤ 返信用封筒に記載されているバーコードは、社協で取り扱う郵便物であることを示すもので、個人を識別するものではありません。
- ⑥ 本調査についてご不明な点がございましたら社協までお問い合わせください。

[1] あなたのことについておたずねします。

質問1. あなたの性別を教えてください

(○は1つ)

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

質問2. あなたの年齢(平成27年8月1日現在)を教えてください。(○は1つ)

- | | | |
|-----------|-----------|-----------|
| 1. 20代 | 2. 30代 | 3. 40代 |
| 4. 50代 | 5. 60~64歳 | 6. 65~69歳 |
| 7. 70~74歳 | 8. 75~79歳 | 9. 80歳以上 |

質問3. あなたの職業を教えてください。(○は1つ)

- | | | | |
|---------|------------|--------|--------------|
| 1. 学生 | 2. 農業 | 3. 漁業 | 4. 会社員 |
| 5. 団体職員 | 6. 公務員 | 7. 自営業 | 8. パート・アルバイト |
| 9. 無職 | 10. その他() | | |

質問4. きずな推進委員会では、皆さんの意見を小学校区ごとに集約します。

あなたのお住いの地区を小学校区で教えてください。(○は1つ)

1. 登別小学校区 (カルルス町、上登別町、登別温泉町、中登別町、登別東町、登別本町、登別港町、富浦町、札内町 381 番地)
2. 幌別小学校区 (中央町、常盤町、千歳町、新栄町、来馬町、札内町)
3. 幌別東小学校区 (幌別町、幸町)
4. 幌別西小学校区 (富士町、新川町、片倉町、柏木町、川上町、鉾山町)
5. 青葉小学校区 (緑町、桜木町、青葉町、若山町 1・2 丁目)
6. 富岸小学校区 (新生町、富岸町、若山町 3・4 丁目、栄町 3・4 丁目、大和町 1・2 丁目)
7. 若草小学校区 (美園町、若草町、上鷺別町)
8. 鷺別小学校区 (鷺別町、栄町 1・2 丁目)

質問5. あなたがたずさわっている福祉活動について教えてください。(○はいくつでも)

- | | | |
|-------------------|-----------------------|-------------|
| 1. 町内会長 | 2. 町内会役員 | 3. 福祉委員 |
| 4. 民生委員児童委員 | 5. サロンサポーター | 6. NPO |
| 7. ボランティアグループ | 8. 個人ボランティア | 9. 社協理事・評議員 |
| 10. 共同募金委員会理事・評議員 | 11. きずな推進委員 | 12. 生活支援員 |
| 13. あんしん訪問員 | 14. ファミリーサポートセンター提供会員 | |
| 15. その他 (| |) |

質問6. あなたの福祉活動に関わっている年数を教えてください。(○は1つ)

- | | |
|-----------|-----------|
| 1. 0～2年 | 2. 3～4年 |
| 3. 5～9年 | 4. 10～14年 |
| 5. 15～19年 | 6. 20年以上 |



次の3ページから、現在取り組んでいる“地域での支え合い活動”に関する質問になります。
ご協力をお願いします。

[2] 現在取り組んでいる“地域の支え合い活動”についておたずねします。

質問7. あなたがお住いの地域で、高齢や障がい、子育てなどでお困りの方がいると思われませんが、
あなたが個人的に頼まれ、実際に支援している（していた）取り組みはありますか？

また、今後、地域として支援が必要だと思う取り組みはありますか？

（該当する項目について、表の欄内に○を付けてください。○はいくつでも）

回 答 項 目		支援している （していた） 取り組み	今後支援が必 要な取り組み
支え合い ・見守り 支 援	1. 日頃からの声かけ・訪問・見守り		
	2. 話し相手		
	3. 相談相手		
	4. 生活情報のわかりやすい提供（福祉の制度や地域の情報など）		
	5. 緊急時や災害時の手助け（災害情報の伝達、安否確認など）		
買物支援	1. 買い物代行		
	2. 買い物同行		
家事支援	1. 掃除や片付け、ゴミ出し		
	2. 草取りや庭の掃除、庭木のせん定		
	3. 雪かき		
	4. ちょっとした手伝い（電球交換や灯油ポリタンクを運ぶなど）		
外出支援	1. 外出先への送り迎え		
	2. 外出先への付き添い		
	3. 医療機関への送り迎え		
	4. 医療機関への付き添い		
	5. 散歩の付き添い		
空家管理	1. 空家の見回り（状態の確認や草刈り、チラシ除去など）		
	2. 空家の鍵の預かり（空気の入替や緊急時の備えなど）		
日常生活 の支援	1. 鍵の預かり（安否確認や緊急時の備えなど）		
	2. 郵便物の確認（内容の確認や代読など）		
子育て支援	1. 託児の支援		
	2. 病児の支援（軽度の風邪や発熱の乳幼児・児童の預かり）		
その他の 支 援	1. 社会参加のお誘い（町内会活動やサロンへの呼びかけなど）		
	2. 食事の提供		
	3. 入退院時の支援（着替えの準備や入退院の付添など）		
	4. ペットの世話		
・活動していない			

※上記以外に「支援している取り組み」や「支援が可能な取り組み」がありましたらお書き下さい。

支援している取り組み（ ）

支援が可能な取り組み（ ）

質問8. 質問7で“今後、地域として支援が必要だと思う取り組み”についておたずねしましたが、
どのような体制や援助があると、取り組みやすいと思いますか？（〇はいくつでも）

- | | |
|----------------------|--------------------------|
| 1. 気軽に立ち寄れる拠点の設置 | 2. 専門的な相談窓口の設置 |
| 3. 研修会の充実 | 4. 専門職との連携（地域包括支援センターなど） |
| 5. 実費負担程度の有償サービスの仕組み | 6. 活動に対する保険や補償 |
| 7. 活動に対する広報啓発の充実 | 8. 地域支援の組織体制づくり |
| 9. その他（ | ） |

質問9. 福祉活動を進めるなかで、あなたは、どのようなことにお困りですか？（〇はいくつでも）

- | | |
|------------------|-------------------------|
| 1. 自分自身の相談相手がいない | 2. 相談内容が多岐に渡り、対応に苦慮している |
| 3. 自分の専門外の相談がある | 4. どの専門機関につなげていいかわからない |
| 5. なり手、後任がいない | 6. 活動に必要な情報や専門知識が不足している |
| 7. 責任感や負担感が多い | 8. 家族など、周囲の理解が得られない |
| 9. 実費負担が多い | 10. 報酬がない |
| 11. その他（ | ） |
| 12. 特にない | |

質問10. 福祉活動を進めていくうえで、地域の人から個人的な相談を受けることもあると思いますが、
その中で、解決しなかった、または、専門職につなぐことができなかった相談事がありますか？
（〇はいくつでも）

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1. 介護・介助に関する相談 | 2. 介護保険サービスに関する相談 |
| 3. 生活費に関する相談 | 4. 年金や各種手当に関する相談 |
| 5. 通院支援に関する相談 | 6. 買い物支援に関する相談 |
| 7. 医療や健康に関する相談 | 8. 子育てに関する相談 |
| 9. 子どもの教育や学校生活に関する相談 | 10. 仕事に関する相談 |
| 11. 家族関係に関する相談 | 12. 住宅の維持管理や掃除に関する相談 |
| 13. その他（ | ） |
| 14. 特にない | |



ここまで、ご回答いただきありがとうございます。
次の5ページから、これからの
“地域の支え合い活動”の取
組みに関する質問になります。
ご協力をお願いします。

[3] これからの“地域の支え合い活動”の取り組みについておたずねします。

質問 11. 地域において住民が暮らし続けていくためには、地域に沿った生活支援サービスの確保が重要だと考えられています。

今後、地域の支え合い活動の中で、実費負担を求めても良いと思うサービスは何ですか？

また、そのサービスの中で、あなたが参加してみたいと思うサービスは何ですか？

(該当する項目について、表の欄内に○を付けてください。 ○はいくつでも)

回 答 項 目		実費負担を 求めても良い サービス	参加して みたい サービス
買物支援	1. 買物代行		
	2. 買物同行		
家事支援	1. 掃除や片付け、ゴミ出し		
	2. 草取りや庭の掃除、庭木のせん定		
	3. 雪かき		
外出支援	1. 外出先への送り迎え		
	2. 外出先への付き添い		
	3. 医療機関への送り迎え		
	4. 医療機関への付き添い		
食事支援	1. 共食支援（一人で食べるのではなく、家族や友人、 地域の人など、誰かと共に食事をする事）		
	2. 食事の提供		
空家管理	1. 空家の見回り（状態の確認や草刈り、チラシ除去など）		
	2. 空家の鍵の預かり（空気の入替や緊急時の備えなど）		
日常生活 の支援	1. 鍵の預かり（安否確認や緊急時の備えなど）		
	2. 郵便物の確認（内容の確認や代読など）		
子育て支援	1. 託児の支援		
	2. 病児の支援（軽度の風邪や発熱の乳幼児・児童の預かり）		
その他の 支 援	1. 入退院時の支援（着替えの準備や入退院の付添など）		
	2. ペットの世話		
・ 特にない			

※上記以外に「必要なサービス」や「協力できるサービス」がありましたらお書き下さい。

必要なサービス ()
 協力できるサービス ()

質問 12. 社会福祉協議会は、住民の方々とともに、福祉活動を推進していますが、今後、地域の助け合い・支え合い活動を活発にするために、これからの社協に求めるもの・期待するものは何ですか？（〇はいくつでも）

1. 地域の相談窓口の設置
2. 活動に関する相談体制の充実
3. 地域と専門職とを密接につなぐ仕組みづくり
4. 個別支援をしてくれるボランティアの仕組みづくり
5. 実費負担程度の有償サービスの仕組みづくり
6. 活動の拠点となる場所の確保と整備
7. 介護予防教室を小学校区ごとに設置・運営
8. ふれあい・いきいきサロンにおける介護予防プログラムの充実
9. 活動のリーダーとなる人の育成と人材発掘
10. 専門的な知識が得られる研修会の開催
11. 地域福祉を進める基盤となる福祉教育の推進と充実
12. 体験活動など、初めての人も参加しやすいきっかけづくりやプログラムの充実
13. 活動内容や福祉情報提供などの広報啓発
14. 団体への活動資金の援助
15. 災害時の支援ネットワークづくり
16. その他（)
17. 特にない

質問 13. 活動をふまえて、あなたが学んでみたい研修の内容は何ですか？（〇はいくつでも）

1. 介護・介護予防の知識や方法
2. 被介護体験の研修
3. 障がいの知識や理解、サポートの方法
4. 医療の知識や理解、在宅看護の方法
5. 保健・健康の知識や理解、健康づくりの方法
6. 食生活や運動などの生活習慣に関する研修
7. リフォームなど住環境の改善の方法
8. 福祉制度やサービスの施行・改正に関する研修
9. 傾聴やコミュニケーションの理解とその方法
10. 地域福祉活動の意義とその進め方
11. グループ・団体運営の方法やリーダーの養成、会員の資質向上
12. 実践的活動事例の発表や交流
13. 住民座談会における地域の福祉課題の共通理解と解決へ向けての協議
14. 防災に関わる知識と災害時における支援の方法
15. 他団体・他職種との意見交換や情報交換
16. 福祉施設等の見学（施設利用の説明を含む）
17. その他（)
18. 特にない



これからの登別のきずなを 考える福祉アンケート調査

登別市社会福祉協議会（社協）は、市民と共に福祉のまちづくりを進めている民間の福祉団体です。平成23年度からスタートした第2期登別市地域福祉実践計画「きずな」は今年で最終年度の5か年目を迎えています。

現在、新たに次期5か年の第3期きずな計画（平成28年度～32年度）を策定するために、社協ではきずな推進委員会等を設置して取り組んでいるところです。

また、各種制度改正等による地域の支え合い活動への影響も大きいことが懸念され、地域の暮らしを守るため、地域福祉実践者や事業所、行政、社協などが連携した地域で暮らす人々の生活を支える仕組みづくりが求められています。

そこで、本アンケート調査は、具体的な生活支援サービス（制度上のサービス以外）の検討や構築をするため、貴事業所における生活支援サービスの現状や今後の取り組みについて教えていただきたく実施することとなりました。

お答えいただいた内容は、すべて統計的に処理をいたしますので、本調査内容がこの目的以外に使用されることは一切ありません。

本調査の趣旨をご理解いただき、第3期きずな計画策定にご協力をお願いします。

平成28年1月

社会福祉法人登別市社会福祉協議会 会長 佐藤 逸夫
きずな推進委員会 委員長 山田 正幸
地域包括ケアプロジェクトチーム リーダー 田中 秀治

お問合せ先：社会福祉法人 登別市社会福祉協議会

〒059-0016

登別市片倉町6丁目9-1 登別市総合福祉センター（しんた21）内

電話 0143-88-0860 FAX 0143-88-4546

ご記入方法について

- ① 本アンケートは、“生活支援サービス”の現状や今後の取り組みなどについて、専門職としての考えをおたずねするものです。
- ② 各設問に直接ご記入ください。
- ③ お答えいただきましたアンケートは、お手数ですが1月26日（火）までに、同封の返信用封筒に切手を貼らずに封をしてそのまま返送（投函）ください。
- ④ 返信用封筒に記載されているバーコードは、社協で取り扱う郵便物であることを示すものです。
- ⑤ 本調査についてご不明な点がございましたら、社協までお問い合わせください。

[1] 事業所のことについておたずねします。

質問1. ご回答者様のことを教えてください。

【事業所名】 _____

【回答者名】 _____

【連絡先】Tel (_____) _____

質問2. きずな推進委員会では、皆さんの意見を小学校区ごとに集約します。

貴事業所の所在地区を小学校区で教えてください。(○は1つ)

1. 登別小学校区 (カルルス町、上登別町、登別温泉町、中登別町、登別東町、登別本町、登別港町、富浦町、札内町 381 番地)
2. 幌別小学校区 (中央町、常盤町、千歳町、新栄町、来馬町、札内町)
3. 幌別東小学校区 (幌別町、幸町)
4. 幌別西小学校区 (富士町、新川町、片倉町、柏木町、川上町、鉱山町)
5. 青葉小学校区 (緑町、桜木町、青葉町、若山町 1・2 丁目)
6. 富岸小学校区 (新生町、富岸町、若山町 3・4 丁目、栄町 3・4 丁目、大和町 1・2 丁目)
7. 若草小学校区 (美園町、若草町、上鷺別町)
8. 鷺別小学校区 (鷺別町、栄町 1・2 丁目)



次のページから、“生活支援サービス”
や“地域福祉の推進”など、具体的な
質問になります。

ご協力をお願いします

[2] 生活支援サービスのことについておたずねします。

質問3. 別紙「サービス種別の凡例」をご参照ください。

貴事業所において、現在提供している生活支援サービスの内容をご記入ください。

また、提供していないサービス種別につきましては、専門職として必要性を感じる具体的なサービス内容をご記入いただくとともに、今後の提供予定のサービスがありましたらご記入ください。

サービス種別	提供している	提供していない	
	サービス内容	必要性を感じるサービス内容	提供を予定しているサービス内容
①制度上のサービスの上乗せ・付加価値サービス	(自己負担 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無)		(年 月予定)
②訪問サービス (理美容、趣味講座等)	(自己負担 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無)		(年 月予定)
③家事等援助サービス (掃除、買物同行・代行等)	(自己負担 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無)		(年 月予定)
④配食サービス	(自己負担 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無)		(年 月予定)
⑤共食サービス	(自己負担 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無)		(年 月予定)
⑥物販サービス (移動販売、訪問販売等)	(自己負担 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無)		(年 月予定)
⑦安否確認サービス (定期訪問・電話掛け等)	(自己負担 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無)		(年 月予定)
⑧移動・付添支援サービス (移送、通院付添等)	(自己負担 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無)		(年 月予定)
⑨通い・サロンサービス (地域食堂、健康体操等)	(自己負担 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無)		(年 月予定)
⑩金銭管理・契約代行サービス	(自己負担 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無)		(年 月予定)
⑪その他 (上記以外のサービス)	(自己負担 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無)		(年 月予定)

質問4. 地域関係者（町内会、民生委員児童委員、ボランティア など）と連携した生活支援サービスの提供が求められておりますが、今後、社協へ期待することはありますか。（○はいくつでも）

- | | |
|-------------------------|-----------------------|
| 1. 貴法人と地域関係者をつなぐ仕組みづくり | 2. 貴法人を支援する地域関係者の育成 |
| 3. 実費負担程度の有償サービスの仕組みづくり | 4. 活動のリーダーとなる人材の育成と発掘 |
| 5. 社協と連携した生活支援サービスの提供 | 6. 福祉教育の推進と充実 |
| 7. 生活支援サービスの広報啓発 | 8. 活動中の事故やけがの補償 |
| 9. その他（ | ） |
| 10. 特にない | |

[3] 地域福祉の推進についておたずねします。

質問5. 貴事業所において、地域貢献活動として今後協力可能な取り組みについて教えてください。

(〇はいくつでも)

1. 地域においてレクリエーションを行う職員の派遣
2. 地域での勉強会の講師の派遣
3. 地域住民のサロンや学習会実施などにおける貴法人の空きスペースの開放、使用
4. 小中学生を対象とした現場体験の受け入れ
5. 授産製品等の移動販売の受け入れ
6. 鍵の預かりなどの実施（地域住民の鍵の保管・管理）
7. 送迎車両への見守りパトロール実施看板の設置
8. 未使用の時間帯の福祉車両の使用
9. 生活困窮者などへの一時的な食事の提供
10. 生活困窮者などへの一時的な居住場所（1～2泊）の提供
11. 地域貢献活動の実施に伴う募金箱の設置
12. 地域貢献活動の実施に伴う広報協力
13. 地域貢献活動に対する財政的支援
14. その他（）
15. 協力は難しい

質問6. 今後、生活支援サービスや地域福祉を進めて行くうえで、ご意見やアイデアなどがありましたら、ご自由にお書きください。

アンケートは以上で終わりです。ご協力いただき、ありがとうございました。

質問3 別紙【サービス種別の凡例】

～ 質問3をお答えいただく際の参考にしてください ～

- ①制度上のサービスの上乗せ・付加価値付与サービス
例) 支給限度基準額を超えて利用されるサービス、制度上のサービスに付加価値をつけるサービス など
- ②訪問サービス（店舗などで提供されるサービスを訪問して提供するサービス）
例) 訪問理美容サービス、訪問しての趣味講座や生活健康相談 など（電話相談は⑪）
- ③家事等援助サービス（家事支援に関わるサービス全般に関するサービス）
例) 掃除、ゴミ出し、洗濯、調理、買物同行・代行、庭仕事、ペットの散歩 など
- ④配食サービス（調理された食事を配達するサービス）
- ⑤共食サービス（利用者と共に食事を摂るサービス）
- ⑥物販サービス（日常生活に関わる物販サービス）
例) 移動販売、訪問販売 など
- ⑦安否確認サービス
例) 安否確認のための定期訪問サービス、定期的な電話かけサービス など
- ⑧移動支援・付添サービス
例) 移送サービス、通院・入退院の付き添い、外出の付き添い など（旅行の付き添いは⑪）
- ⑨通い・サロンサービス（利用者宅以外の場所で多数を集めてサービスを提供するサービス）
例) 地域食堂、喫茶、ふれあい・いきいきサロン、趣味講座、健康体操 など
- ⑩金銭管理・契約代行サービス
例) 金銭管理、契約代行、鍵の預かり、残存家財の片付け など
- ⑪その他（上記に該当しないサービス）
例) 旅行の付き添い、電話による生活・健康相談、就労やボランティア参加への支援 など